

## 和仏法律学校講義録

金井, 延 / 矢作, 榮藏 / 高橋, 作衛 / 竹井, 耕一郎 / 若槻, 禮次郎

---

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

1-21

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

47

(発行年 / Year)

1902-09-05



(明治三十四年十一月四日第三種郵便認可 毎月一回  
明治三十五年九月五日發行)

三十五年度 第一學年

和佛法律學校講義錄



和佛法律學校發行

第貳拾壹號

# 第一學年第二十一號目次

憲

法 (自二一九至二三四)

法學士 竹井耕一 耶

民法總則

自第四章至第六章 (自二六七至二八二)

法學士 若槻禮次郎

國際公法 (非常) (自一九五至二〇五)

法學博士 高橋作衛

經濟學總論 (自四九至六四)

法學博士 金井延

經濟學各論 (自三六至四一)

法學士 矢作榮藏

雜報

○犯罪ト手段○賣買代金ノ消滅時效○家屋税問題ト仲裁裁判

090  
1902  
1-1-21

シ又ハ否決スレハ奏上ト同時ニ甲院ニ通知ス然ルニ若シ乙院ニ於テ更ニ修正ヲ施シタルトキハ之ヲ甲院ニ回付ス甲院之ニ同意スレハ奏上ト同時ニ乙院ニ通知ス若シ同意セザレハ兩院協議會ノ手續ニ依ル次ニ甲院提出ノ案ヲ乙院修正スレハ甲院ニ回付シ甲院同意スレハ同シク奏上、通知ヲ爲ス若シ同意セザレハ同シク兩院協議會ノ手續ニ依ル

兩院協議會ハ各院ヨリ十人以下同數ノ委員ヲ選ビテ會同セシムルモノナリ此等委員ノ協議案成立シタルトキハ先ツ政府ヨリ議案ヲ受取リ又ハ議案ヲ提出シタル院ニ於テ之ヲ議シ次ニ他ノ院ニ移ス各院ハ此案ニ對シテ可否ヲ決スルノ更ニ修正ヲ爲スコト能ハサルモノトス

## 第五節 議員

### 第一項 議員ノ就職、召集及ヒ解職

議員ノ就職ニ關シテハ前ニ貴族院及ヒ衆議院ノ組織ヲ述ヘタル際ニ大體ノ說明ヲ爲シタルカ故ニ之ヲ略ス議員ハ議會ヲ召集スル權アリ又ハ議會ヲ召集スル權アリ

憲法 機關論 帝國議會 議員

召集ハ天皇大權ヲ行動ニシテ議員ヲ集會セシムルノ手續ナリ憲法ニ議會ヲ召集ストアレトモ嚴密ニ言ヘハ各議員ヲ召集スルナリ召集ハ每年少クトモ一回ハ之ヲ行ハサルヘカラス召集スヘキ場所及ヒ時日ハ必ズシモ一定セズ  
次ニ解職ノ場合左ノ如シ

- 一 任期滿了 貴族院議員ニ在リテハ伯子男爵議員及ヒ多額納税議員ノミ此原因ニ由リ解職ス衆議院議員ハ總テ然リ
- 二 除名 貴族院議員ノ除名ハ勅裁ニ由ラサルヘカラス衆議院議員ハ然ラス
- 三 辭職 貴族院議員ニ在リテハ伯子男爵議員及ヒ廣義ノ勅任議員ノミ此原因ニ由リ解職ス而シテ辭職ハ勅許アルヲ必要トス衆議院議員ハ總テ其院ノ許可ニ依リ辭職スルコトヲ得
- 四 死亡
- 五 任官任職 即チ或官職ニ任セラルトキハ議員ノ職ヲ失フ貴族院議員ニ在リテハ伯子男爵議員及ヒ多額納税議員ノミ此原因ニ由リ解職ス衆議院議員ハ總テ然リ

六 資格喪失 身分能力財産等ノ關係ヨリ議員ノ資格缺乏セル場合ニ解職ス貴族院ニ於テハ皇族公侯伯子男爵及ヒ多額納税議員ニ關シテノミ此場合ヲ生シ衆議院ニ於テハ總テノ議員ニ關シテ此場合ヲ生ス

## 第二項 議員職務執行ノ形式

各議員ハ其職務ヲ行フニ左ノ形式ニ依ル  
一 發言及ヒ表決 發言トハ議事ニ關スル一切ノ言論ヲ謂ヒ表決トハ決議ノ數ニ加ハルヲ謂フ  
二 發議 議案其他ノ發議ヲ爲スヲ謂フ  
三 質問 各員ハ議長ヲ經テ政府ニ質問スルコトヲ得質問ニ對シテ國務大臣ハ答辯ヲ爲ササルトキハ其理由ヲ示ササルヘカラス但答辯ハ書面ヲ以ラスルモ口頭ヲ以ラスルモ可ナリトス尙ホ議院法第五十條ニ依レハ國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ得サルトキハ質問ノ事件ニ付キ建議ノ勸議ヲ爲スコトヲ得



四 選舉 各種ノ役員ノ選舉ニシテ例ハ議長副議長部長委員等ノ選舉是ナリ貴族院ニ於テハ衆議院ニ比スレハ選舉事務尠シトス

### 第三項 議員ノ權利

議員ノ義務ハ今特ニ之ヲ説明スルノ要ナシ唯議院法第十七章ニ院ノ紀律及ヒ警察ヲ規定スル處ニ於テ議員ハ大體議院法若クハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ルコト能ハサルハ勿論皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スヲ得ヌ又無禮ノ語ヲ用ヒ及ヒ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得サル等ノ規定アリ此項ニ於テ主トシテ述フヘキハ議員ノ權利ニ關ス

一 發言表決ノ自由權 憲法第五十二條ニ曰ク兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシト此權利ハ議員ノ職務ヲ保護スルカ爲メニ與ヘタルモノニシテ職務以外即チ一箇人ノ資格ニ於テ其意思ヲ一般ニ表示スル場合ハ關リ

之ヲ保護スルノ限ニ在ラス一般法律ノ支配ヲ受クヘキモノトス此自由權ハ全ク無制限ノモノニ非ス即チ前述ノ如ク皇室ニ對スル不敬ノ言論他人ノ身上ニ涉ル言論及ヒ無禮ノ言語ヲ爲スヲ得サルノ制限アリ憲法第五十二條ニ關スル問題ハ(一)憲法ニ所謂發言シタル意見トハ口頭ニ限ルカ又ハ書面ヲ用フル場合モ之ヲ含ムカ蓋シ口頭ト書面トハ理論上之ヲ區別スヘキ根據ナキノミナラス亦實際上區別ノ必要ナシ故ニ發言ト謂フハ廣ク意思發表ノ意ニ解シ書面ノ場合モ之ヲ包含セシムルコソ此權利ヲ與ヘタル趣意ニ適合スヘシ(二)或學者ハ意見ト云フ中ニ事實ノ陳述ヲモ包含スルヤ否ヤヲ疑問トセリ然レトモ意見ト事實ノ陳述トハ多クノ場合ニ於テ相伴ヒテ分ツベカラサルノミナラス之ヲ區別スヘキ理論上ノ必要ナシ故ニ意見ト謂フハ廣ク職務上ノ言論ト解スヘキナリ最後ノ問題トシテハ(三)一方ニ於テ特別ノ身分ヲ有スル議員例ヘハ官吏カ議員ヲ兼スル如キ場合ニ於テモ完全ニ此權利ヲ有スルヤ否ヤ言ヲ換フレハ院內ニ於ケル言論表決ニ付キ上官ノ爲メニ懲戒處分ヲ受タルコトナキヤ否ヤ蓋シ此場合ニ在リテハ一方ニ於ケル議員ノ權利ト他方ニ於

ケル官吏ノ義務ト牴觸スルカ如クニ見ユ然レトモ予ハ以爲ク議員トシテ其職ヲ行フ場合ト官吏トシテ其職ヲ行フ場合トハ全ク區別シテ觀察スヘキモノナルカ故ニ二者ノ間ニ牴觸ノ恐ナシ故ニ一方ニ於テ官吏タル者モ議員トシテハ他ノ者ト同シク完全ニ權利ヲ行ヒ得サルヘカラス此種ノ權利ハ實ニ議員ノ職務執行ニ必要ナリトス

二 會期中一定ノ罪ヲ除ク外院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルルコトナキ權ニ關シテハ前ニ院ノ職權トシテ逮捕ノ許諾ヲ説明スル際ニ略ホ之ヲ述ヘタリ故ニ詳細ノ説明ハ之ヲ略ス畢竟此權利ハ第一ノ權利ト其目的ヲ同シクシ議員ヲシテ十分ニ職務ヲ盡サシメントスルノ趣意ニ外ナラス唯第一ハ言論ノ自由ニ關シ第二ハ身體ノ自由ニ關スルノ差アルノミ

此點ニ關シテ一言スヘキハ議院ハ許諾ヲ與フルニ何ノ標準ニ據ルヘキヤノ疑問ナリ蓋シ議院ニ於テ犯罪其レ自身ノ有無ヲ審查スルコト能ハサルヤ明カナリ是ニ於テ或ハ曰ク犯罪ニ對スル嫌疑ニ正當ノ理由アリヤ否ヤ竝ニ政府ハ議院ノ獨立ニ干渉スルノ目的ヲ有スルヤ否ヤヲ審查スト或ハ曰ク嫌疑ニ正當ノ

理由アリヤ否ヤハ審查ノ限ニ在ラス唯政府カ議會ニ干渉スルノ目的ヨリ逮捕ヲ行フモノナリヤ否ヤヲ審查スルノミト然レトモ此場合ニ於テハ政府干渉ノ有無ハ之ヲ問フヲ須ヒス唯其嫌疑ニ十分ノ理由アリヤ否ヤヲ審查スルヲ必要トシ且之ヲ以テ十分ナリト考フ

三 歳費其他ノ手當ヲ受クルノ權 先ツ歳費ハ官吏ニシテ議員タル者及ヒ貴族院ニ於ケル皇族公侯爵議員ハ之ヲ受クルコトヲ得ス召集ニ應ゼサル議員モ亦然リ歳費ハ之ヲ辭スルコトヲ得

歳費以外ノ手當ト稱スルハ例ヘハ旅費ノ如キ又ハ議會閉會中議案審查ノ爲メニ設ケラレタル委員ノ手當ノ如キ是ナリ

四 起訴ノ權 明治二十二年十一月法律第二十八號議員保護律ニ依レハ議員ハ職務執行ニ關シ誹毀侮辱妨害暴行脅迫ヲ爲シタル者ニ對シテ訴ヲ起スコトヲ得ルモノトス又議院法ニ依レハ議員ハ議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタルトキハ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムルコトヲ得

以上ヲ以テ議員權利ノ大要ヲ述ヘ了リタルト同時ニ本章ノ説明ヲ了レリ

## 第七章 國務大臣

憲法第五十五條ニ曰ク國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關スル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要スト  
先ツ國務大臣國法上ノ地位ヲ論セント欲ス二十八  
甲說ハ曰ク國務大臣トハ最高ノ行政官廳ヲ謂フト此說ハ現行行政法上ノ方面ヨリ國務大臣ヲ觀察シタルモノニシテ憲法上ノ觀察ニ非ス内閣官制ニ依レハ内閣總理大臣及ヒ各省大臣ハ總テ國務大臣タリトス此等ノ大臣ノ外ニ尙ホ國務大臣アリ得サルニ非スト雖モ此等ノ大臣ト少クトモ國務大臣ノ一部トハ同一ナリ故ニ右ノ如キ定義ヲ下セシモノナルヘシ然レトモ人民ニ對スル行政機關トシテノ觀察ナリ憲法上ニ於ケル國務大臣ハ天皇ニ對スル輔弼ノ機關ナリ此二ノ觀察ハ理論上明カニ區別スヘキモノニシテ一ハ下ニ對シ一ハ上ニ對シ其作用ノ形式全ク異ナルヲ見ルヘシ故ニ曰ク甲說ハ不可ナリト  
乙說ハ曰ク國務大臣ハ直接ニ元首ニ隸屬シ元首ノ政治上ノ行為ニ參贊シ其責

ニ任スル機關ナリト此說ハ全體ニ於テ曖昧ナルカ故ニ一一其缺點ヲ舉ケテ論般スル價值ナキナリ  
予ハ國務大臣ヲ以テ天皇大權ノ行使ヲ輔弼スル機關ナリトス  
此定義ニ於テ先ツ天皇大權トハ何ソ蓋シ國ノ政務ニ二種アリ一ハ天皇カ親裁セララルモノニハ機關ヲシテ行ハシムルモノ是ナリ天皇ノ大權トハ前者即チ親裁ノ政務ヲ稱ス畢竟國務大臣ハ天皇直接ノ政務ニ參贊スルノミ機關ニ依リテ行ハルル政務ニ關シテハ干與スルノ限ニ在ラス  
次ニ輔弼トハ何ソ天皇ノ行為ヲ傍ヨリ參贊スルノ意ニシテ天皇ノ行為ノ一部ヲ補充スルモノト看ルヘカラス或學者ハ天皇ハ國務大臣ノ輔弼ヲ拒ミ得ルヤ否ヤト問題ト爲ス蓋シ輔弼ノ權限其レ自身ニ憲法上定マリタルモノニシテ之ヲ勸スヘキ性質ノモノニ非スト雖モ輔弼ノ行為ニ必スシモ天皇ヲ拘束スルモノニ非ス天皇之ヲ拒ミテ納レサルコトモ爲シ得サルニ非サルナリ  
以上ハ國務大臣ノ性質ノ大體ナリ次ニ國務大臣ノ責任ニ移リテ說明ヲ試ミ  
ト欲ス

大臣責任ノ理論ハ種種アリ先ツ

第一説ニ依レハ君主ニ對シテ其責任ヲ問フコト能ハス故ニ大臣カ代リテ責任ヲ負擔スルモノト爲ス然レトモ若シ此ノ如クシハ他人ノ行爲ニ對シテ無關係ナル者カ責任ヲ負フコトト爲リ甚テ不道理ニ説ナリト云ハサルヘカス  
第二説ニ曰ク君主ハ本來過失ナシ唯大臣ノ輔弼宜キヲ得サル爲メニ過失ヲ生ス故ニ之ニ對シテ大臣ハ責任ヲ負ハサルベカラズト此議論ハ先ツ君主ニハ絶對ニ過失ナキコトヲ斷定スレトモ此斷定ハ必ズ然リト謂フコト能ハス隨テ過失ノ責任ヲ總テ國務大臣ニ歸スル十分ナル證據ヲ有セストノ批難ヲ免ルコト能ハス得  
第三説ニ曰ク君主ハ立法、行政、司法三權ノ主ニ立チ之ヲ統御スルノ地位ニ在ル者ニシテ政治ノ實務ニ當ル者ニ非ス故ニ施政上ノ責任ハ總テ大臣ノミ之ニ當ルト此説ハ君主ハ全ク政ヲ行ハストスレトモ憲法上君主親裁ノ政務ハ決シテ御カラス隨テ此點ヨリシテ君主無責任及ヒ大臣責任ヲ論スルコト能ハサルヤ亦明カナリ

第四説ニ曰ク大臣ハ君主ト共ニ國家ノ行爲ニ參加ス故ニ總テ責任ヲ負擔セサルヘカラスト此論固ヨリ我國法ニ適用スヘカラス且一般立憲國ノ國法トシテモ大臣ハ君主ニ隸屬スル機關ニ過キス君主ト對立シテ國家ノ行爲ニ參加スルモノト看ルヘキニ非ス故ニ此説ハ不可ナリ  
以上大臣責任ニ關スル内外學說ノ主要ナルモノヲ擧ケテ之ヲ略評セリ  
予ハ以爲ク大臣責任ノ理由ハ甚テ簡單ナリ今單ニ我憲法ニ就テ論ゼンニ第五十五條ニ於テ大臣ハ天皇ヲ輔弼スルノ權限アルコトヲ定ム此權限ノ存スル所即チ責任ノ生スル所以ナリ總テ權限ヲ有スル者ハ責任之ニ伴フハ當然ノ理ニシテ各種ノ機關皆然ラサルナシ故ニ大臣ノ責任ハ君主ニ代リテ負擔スルニモ非ス君主ト對立シテ負擔スルモノニモ非ス自己カ與ヘラレタル權限ヨリ當然責任ヲ負擔スルニ外ナラス  
大臣ノ權限ハ右ニ述ヘタル如ク天皇ヲ輔弼スルニ在リ故ニ天皇ヲ行爲ニ關シタハ常ニ國法ニ違ハス以テ一國ノ安寧幸福ヲ維持増進スル期ニ其職責ヲ盡ササルヘカラス若シ此ノ如クナル能ハザランカ大臣ハ其權限ヲ忠實ニ行

ハサルノ責ヲ免ルルコト能ハサルナリ。然ラハ其機關ニ忠實ニ任  
大臣責任ノ理由右ノ如シ。然ラハ或ハ曰ハシ總テ機關ハ其權限ニ俾テ責任ア  
リ大臣憲法上ノ責任モ之ト異ナラストハ特ニ此ノ如キ規定ヲ設ケル必要ヲ  
見ス畢竟他ノ機關ト同シク責任ニ關シテハ何等ノ規定ヲ設ケサルモ可ナリ。然  
ルニ憲法ニ於テ特ニ此規定ヲ設ケシハ他ニ責任ノ理由在リテ存スルニ非ス。  
ト然リ大臣ノミニ關シ特ニ責任ヲ規定セシハ責任ノ性質カ他ニ異ナルニ非ス。別  
ニ之ヲ規定スヘキ必要アリテ存スルナリ之ヲ知ルカ爲メニハ總テ本條全體  
ヲ通覽スルヲ要ス曰ク「國務大臣ハ……其責任ス下即チ本條ハ各大臣單獨  
ノ責任ヲ規定シ外國ノ制度ニ於ケル連帶責任ノ主義ニ依ラサルコトヲ明カニ  
スルモノニシテ特ニ責任ノ規定ヲ爲ス必要此ニ在リテ存スルナリ」  
外國ニ於テハ或ハ黨派政治ノ實ヲ認メ各政黨團體カ内閣ヲ與奪スルカ故ニ國  
務大臣ノ地位ハ一黨之ヲ占有シ連帶シテ政務ニ當リ其責任モ亦連帶シテ之ニ  
當ルヲ原則トス然ルニ我國ニ於テハ黨派政治ノ實ヲ認メス隨テ連帶シテ責ニ

任スルノ主義モ之ヲ認ムルコトヲ爲サス大臣ハ各自ノ權限ニ因リテ責任ヲ負  
擔スルヲ原則トス故ニ曰ク「各大臣ハ……其責任ニ任スト」  
右述ヘタル所ニ據リ憲法ニ於テ特ニ大臣ノ責任ヲ規定シタル所以ヲ知ルニ足  
ルヘシ。然レモ我國ニ於テハ總テ機關ハ其權限ニ俾テ責任ヲ負  
責任ハ何人ニ對シテ負擔スルヤ蓋シ統治ノ機關タル者ハ總テ統治ノ主體ニ對  
シテ責任スルニ外ナラス言ヲ換フレハ主體ニ由リテ付與セラレタル權限ヲ行  
フハ主體ニ對スル義務ニシテ之ニ由リテ責任ヲ生スルナリ我國法ニ於テハ電  
ニ國務大臣ノミナラス百官百司皆天皇ニ對シテ責任スルモノタルヲ論ラ埃  
タス。然ルニ外國ノ學說トシテハ屬大臣ノ輿論ニ對スル責任及ヒ議會又ハ裁判所ニ  
對スル責任等ヲ論ス我國學者モ往往此種ノ說ヲ爲ス者アリ蓋シ輿論ニ對スル  
責任トハ外國ニ於テ國務大臣カ輿論ノ趨勢ニ依リ責任ヲ引キテ退クノ習慣アル  
ヨリ來ルノ說タリ然レトモ此等ハ民主國ニ在リテ論スヘキ事ニシテ我國法ニ  
於テ同フ所ニ非ス次ニ議會及ヒ裁判所ニ對スル責任ト稱スルハ外國ニ於テ或

ハ議會ニ大臣彈劾ノ職權ヲ認メ或ハ大臣ニ對スル裁判機關ヲ設クル場合ニ於テ學者カ此種ノ責任ヲ舉ク然レトモ正確ナル理論ト謂フヘカラス何トナレハ前述ノ如ク機關ノ責任ハ主體ニ對スルニ外ナラス議會ニシテ統治ノ主體タリ裁判所ニシテ統治ノ主體タラハ始メテ之ニ對スル責任ヲ論スヘシト雖モ若シ然ラサル以上ハ議會ノ彈劾裁判所ノ裁判ハ主體カ此等機關ニ依リテ大臣ノ責ヲ問フ手段ニ過キス此手段ニ供セラルル機關ニ對シテ責任アリト云フノ正確ナラサルハ固ヨリ明カナリ

外國法ノ論トシテモ右述ヘタル如シ我國法トシテハ勿論大臣ノ彈劾及ヒ裁判ノ制度ハ之ヲ認メス隨テ此種ノ責任ハ論スルヲ要セサルナリ

尙ホ或學者ハ大臣責任ノ種類ヲ舉ケ(一)道德上ノ責任(二)政治上ノ責任(三)法律上ノ責任トヲ區別スト雖モ此區別カ國法上適當ナラサルハ論ヲ俟タス且此處ニ於テ説明スルハ單ニ大臣憲法上ノ責任ニ止マルヲ以テ其他ニ及フノ必要ナク此等ノ議論ニ就テ一辯駁ヲ費ササルヘシ

以上ヲ以テ憲法第五十五條第一項ヲ略說セリ次ニ第二項ノ説明ニ移ラントス

同項ニ曰ク凡テ法律勅令其他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要スト先ツ副署トハ如何ナル性質ノモノナリヤヲ論セサルヘカラス普通ノ學者ハ曰ク副署ハ君主行爲ノ公ノ證明ナリ故ニ副署ナキ君主ノ行爲ハ國法上君主ノ行爲タル能ハスト蓋シ此見解ハ本來ノ道理ヲ誤リ學者ヲシテ一種ノ誤解ヲ生セシムルノ恐ナキニ非ス何トナレハ副署ハ單ニ君主ノ行爲カ踐ムヘキ一ノ手續ニ過キス之ヲ以テ君主ノ行爲其レ自身ヲ認定スルモノト看ルヘカラス言ヲ換フレハ副署本來ノ性質ハ國務大臣カ君主ノ行爲ヲ參照セシコトヲ明カニスルモノニシテ進ミテ君主ノ行爲ヲ是認シ證明スルマテノ力ヲ有スルモノニ非ス君主ノ行爲ハ本ナリ副署ハ末ナリ蓋シ其結果ヨリ觀察スレハ副署ナキ法令等ハ效力ヲ生セサルカ故ニ恰モ副署ニ依リ君主ノ行爲カ定マル如ク見ユレトモ是レ本末ヲ誤レル見解ナリ君主ノ行爲カ副署ニ依リテ成ルニ非ス君主ノ行爲ヲ公ニスル一手續トシテ副署ヲ要スル所以ナリ

右述ヘタル如クナルカ故ニ副署ハ大臣カ君主ノ行爲ニ參照シタルコトヲ明カニスル手續ニ外ナラス副署ニ關シ重要ナル問題ハ大臣ハ副署ヲ拒ミ得ルヤ否

ヤノ點ニ在リ之ニ就テハ學說ニ派ニ岐ルハ問題ニ大ニ關聯スルモノナリ。第一說ハ曰ク大臣ハ絕對ニ副署ヲ拒ムコトヲ得ス蓋シ此場合ハ大臣ノ承認ヲ請求スル所以ニ非ス君主カ命シテ副署セシムルナリ君主ノ命スル所大臣ハ之ヲ遵奉スルノ外アルヘカラス縱令其命スル所ニシテ違憲若クハ違法ナリトスルモ大臣ハ之ヲ爭フノ職權ナシ何トナレハ法ノ最高解釋權ハ君主ニ在リ大臣ハ自己ノ見解ヲ探リテ君主ト相爭フコト能ハサルヤ明カナリ若シ假ニ君主ノ命スル所ヲ違法ナリトシテ副署ヲ拒ミ得トセンカ國ノ實權ハ君主ノ手ニ存セスシテ大臣ノ掌握ニ在リト謂ハサルヘカラス是レ背理ノ說ニ非スヤト此論一理アルニ似タリ然レトモ少シク仔細ニ攻究スルトキハ右ノ說明ハ尙ホ疑ハシキ點アルヲ免レス此論ノ要點ハ法ノ正當ナル解釋ハ君主ノミ爲スヲ得大臣ハ之ニ對シテ異議ヲ容ルル能ハスト云フニ在リ此推論ハ必スシモ當ラヌ固ヨリ法ハ天皇ノ意思ナリ然レトモ實際ニ當リテ之ヲ應用スル場合ニハ君主ト雖モ往往解釋ヲ誤ルコトナキニ非ス是ニ於テカ大臣輔弼ノ必要アル所以ニシテ違法ノ行爲ニ對シテハ之ヲ匡補スルコトヲ得サルヘカラス

(乙) 條件成就ノ效力既往ニ遡ラサルトキニ條件成就ノ效力既往ニ遡ラサルモノハ條件成就スルマデ當事者間ニ於テ條件成就スレハ行爲本來ノ目的ヲ權利義務ヲ發生スルモノ一種ノ債權關係ニ成立スル行爲爲本來ノ目的ヲ權利義務ニ對シ直接物權的關係ヲ生スルコトハ故ニ行爲ノ目的ハ債權ナルトモ債權者ニ未タ債務ヲ負擔セズ債權者ニ未タ債權ヲ取得セズ又行爲ノ目的ハ物權ナルトキハ債務者ニ全然其物權ヲ保有シ債權者ハ其物權ト直接ノ關係アルコトナシ其結果トシテ左ノ不便ヲ免レズ

(一) 債務者カ條件ヲ成否未定ノ間ニ於テ行爲本來ノ目的ハ權利ヲ目的トシテ事實的ニ處分シ消費又ハ毀損又ハ法律的不處分アルモ譲渡又ハ物權設定又定其權內ノ行爲ヲ爲シタルニ過キサルヲ以テ債權者ハ之ニ對シテ除ク客二十ルモノ餘地ヲ有セズ

(二) 債權者ハ條件ヲ成否未定ノ間ニ於テハ一種ノ債權ヲ有スルニ過キサルヲ以テ其債權ヲ處分相續又ハ保存スルニ格別行爲本來ノ目的ハ權利義務其モノニ付キ債務者又ハ債權者カ條件附ニテ之ヲ處分相續保存又ハ擔

保スルコトハ之ヲ認ムルニ由ラシメ、附條件ニモシテ、債權時効消滅又ハ附  
右ニ準テタル二點ハ實ニ不適及主義ニ伴フ大缺點ナリ我民法自不適及主義  
採用シタリト雖モ其缺點ハ之ヲ放任スルモトヲ爲サズ第百二十八條及第百  
二十九條ノ兩條ヲ以テ之ヲ補正シタリ即チ第百二十八條ニ依レハ條件附法律  
行為ノ各當事者ハ條件ノ成否未定ノ間ニ於テ條件ノ成就ニ因リ其行為ノ生  
スヘキ相手方ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス故ニ停止條件附法律行為ノ債權者  
行爲ノ目的タル權利ノ目的物ヲ事實的ニ處分シタルトキハ債權者ノ損害ノ賠  
償ヲ請求スルコトヲ得ヘク若シ法律的不處分シタルトキハ其無効ヲ主張スル  
コトヲ得ルモノナリ又第百二十九條ニ依レハ條件ノ成否未定ノ間ニ於ケル當  
事者ノ權利義務ハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分相續保存又ハ擔保スルコトヲ得  
故ニ行爲本來ノ目的タル權利義務ハ一種ノ制限ノ下ニ於テ處分相續保存又ハ  
擔保セララルコトヲ得ルモノナリ條件ノ成否未定ノ間ニ於ケル當事者ノ權利  
義務ハ理論上ニ於テハ條件成就スレハ行爲本來ノ目的タル權利義務ヲ發生セ  
シムヘキ債權債務ニ外ナラヌト雖モ第百二十九條ノ所謂條件ノ成否未定ノ間

ニ於ケル當事者ノ權利義務ヲルモノ此ノ如キ意義ヲ有セシテ正シク行爲  
本來ノ目的タル權利義務ニシテ條件附ミテ當事者ニ屬スルモノトシ意義ニ用  
ヒラレタルモノト謂ハサルハカラス何トナレハ第百二十九條ハ條件成就スレ  
ハ行爲本來ノ目的タル權利義務ヲ發生セシムヘキ債權債務ニ付テハ想像スル  
コトヲ得サル(擔保ナルモノヲ規定スルノミナラス不動產登記法第二條ニ於テ  
ハ不動產權ノ設定移轉變更又ハ消滅ノ請求權カ停止條件附ナルトキハ假登記  
ヲ爲スヘキコトヲ定ムルヲ以テ予ノ解スル如ク見ルニ非テレハ此等ノ條文ノ  
説明ヲ爲スコト能ハサルヘキヲ以テナリ第百二十八條カ當事者間ニ存スル債  
權關係ニ對シ目的物ノ處分ニ付キ物權の關係ニ於ケルト同一ノ效力ヲ付與シ  
タル以上ハ第百二十九條カ當事者ノ權能ニ付キ更ニ同一ノ效力ヲ付與スルコ  
トト爲シタルハ相當ノ事ト以テ而シテ予ハ該兩條ノ規定ノ結果トシテ條件成就  
ノ效力カ既往ニ遡ラサル場合ニ於テモ當事者ノ權利義務ハ其效力ハ既往ニ遡  
ル場合ト異ナルナキニ至リタルモノナリト信スルハ可キ也當事者ハ以上  
以上解除條件及ヒ停止條件ニ區別シテ略述シタル所ハ條件ノ成否未定ノ間ニ



於クル當事者ノ權利義務中專ニ行爲本來之目的タル權利義務ヲ付テ當事者ノ有スル權利義務ノ如何ナルモイオベキヲ説明シタルモノナリ當事者ハ以上ノ權利義務ヲ有スルノ外尙ホ更ニ一ノ義務ヲ有ス條件ノ成就ヲ妨グヘキ事ナリ義務即チ是ナリ蓋シ法律行爲ハ善意ニ之ヲ解釋スルコトヲ要ス條件附法律行爲ヲ爲シタル當事者ハ互ニ條件ノ成就ヲ妨害スルコトヲ前提シタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ若シ當事者ハ一方此義務ニ背キ條件ノ成就ヲ妨グタルトキハ相手方ハ之ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲ス可ト得ヘシ然レトモ條件附法律行爲ニ於ケル條件ノ成就ヲ妨グタルコトヲ得ル生スル損害ノ有無及ヒ程度ハ頗ル不確實ナルモノナリ以テ單ニ損害賠償ノ請求權ノミヲ認ムルトキハ相手方ハ時ニ其權利ノ實行ニ苦テトナキヲ得此ノ如キ場合ニ於テ完テ得タルモノト爲スコトヲ得ス故ニ法律ハ一步ヲ進メ此ノ如キ場合ニ於テハ相手方ハ其條件ヲ以テ成就シタルモノト看做ス可ト得ルモノト爲シ以テ初ヨリ損害ノ生スルコトナカラスヲ要ス(第一二〇條)但法律ハ當事者力故意ニ條件ノ成就ヲ妨グタルトキモ限リテ相手方ニ此權利ヲ與ヘタルヲ以テ當事

者力其過失ニ因リ條件ノ成就ヲ妨グタルトキハ損害賠償ノ責ハ之ヲ免レタルモ相手方ハ其條件ヲ以テ成就シタルモノト看做ス可ト得ルモノト爲シ以テ完テ得タルモノト爲スコトヲ得ス故ニ法律ハ一步ヲ進メ此ノ如キ場合ニ於テハ相手方ハ其條件ヲ以テ成就シタルモノト看做ス可ト得ルモノト爲シ以テ初ヨリ損害ノ生スルコトナカラスヲ要ス(第一二〇條)但法律ハ當事者力故意ニ條件ノ成就ヲ妨グタルトキモ限リテ相手方ニ此權利ヲ與ヘタルヲ以テ當事

### 第一款 期限

第一期限ハ性質上ハ附帶セシメタル將來ノ時期ニシテ必ス到來スベキモノナリ故ニ期限附法律行爲ハ條件附法律行爲ト異ナリ其效力ハ常ニ確定スルモノナリ(第一二一條)期限附法律行爲ノ始ニ附スルト其終ニ附スルトニ依リ始期(beginning)及ヒ終期(end)ニ區別スルコトヲ得例ヘハ五年後ニ至レハ十萬圓ヲ贈與スヘシト云フハ始期附法律行爲ニシテ三十年ヲ以テ終了スヘキ地上權ヲ設定スルハ終期附法律行爲ナリ云々不確定期間ハ不確定期間ニシテ不確定期間ハ期限ハ又其到來スル時期ヲ確定スルコト否トモ依リ之ヲ確定期限及ヒ不確定期

限ニ分テコトヲ得例ハ明治二十六年十二月三十一日限ト云フハ確定期限ニシテ某カ死去スル時ト云フハ不確定期限ナリ但茲ニ不確定ト稱スルハ到來スルコトハ確定ナルモ其到來スル時ヲ不確定ナルヲ謂フモノナリ是レ期限ノ條件ト異ナル所ト爲ス

期限ハ更ニ之ヲ分テ法定期限約定期限及恩惠期限ト爲スコトヲ得ヘシ法定期限トハ法律ノ定メタルモノニシテ民事訴訟法第六十七條ニ依ル期間ノ伸長ハ其一ナリ約定期限トハ當事者カ契約ヲ以テ定メタルモノニシテ吾人ノ常ニ目擊スル所ナリ而シテ恩惠期限トハ裁判所カ債務者ノ履行ヲ容易ナラシメシテ爲メ之ニ許與スル猶豫期限ニシテ舊民法其他債務者ノ保護ニ重キヲ置ク立法例ニ於テハ總テノ債務ニ付キ裁判所ハ恩惠期限ヲ許與スルノ職權アルコトヲ認メタリ然レトモ恩惠期限ヲ許與スルハ債務者ヲ保護スルコト重キニ過キ爲メニ債權者ノ利益ヲ害スルコト防カラス故ニ新民法ハ原則トシテハ之ヲ認メス唯例外トシテ第九十二條、第二百九十九條、第五百八十三條、第五百九十五條ニ於テ或場合ニ限リ裁判所ニ與フルニ相當ノ期限ヲ許與スルノ職權ヲ

以テシタルカ故ニ此四條ニ依ル期限ハ之ヲ恩惠期限ト稱ワズ可ナリ但法定期限及恩惠期限ナルモノハ其ニ法律ノ規定ニ基クモノニシテ當事者ノ意思ニ因ルモノニ非ス故ニ法律行為ノ總體ニシテ期限ヲ論ズルニハ此二者ヲ姑ク之ヲ問題外ニ置カサルヘカラス

其期限ニ付テハ總テノ法律ニ依リテハ期限ハ法律ニ禁止アル場合又ハ法律行為ノ性質之ヲ許サザル場合以外ハ如何ナル法律行為ニモ之ヲ附帶セシムルコトヲ得法律ハ相殺ノ意思表示ニ於テ期限ヲ附スルコトヲ許ササルヲ以テ第五〇六條相殺ノ意思表示ニ於テ期限ヲ附シタルハ相殺ノ效力ヲ生セス婚姻養子縁組等ハ其性質トシテ期限アルコトヲ許ササルモノナルヲ以テ此ノ如キ行為ニハ期限ヲ附スルモノトモ得ズ所有權ヲ移轉スル法律行為ハ之ニ期限ヲ附スルコトヲ得モ之ヲオカス否ハ此問題ハ古來學界ノ間ニ議論ノ一致セサル問題ナリ所有權ニハ期限ヲ附スルコトヲ得ズト論スル者ハ曰ク所有權ノ要素ハ所有者カ其目的物ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルニ在リ所有權ニ期限ヲ附スルモノハ所有者ノ目的物ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ故ニ所有權ナル觀念ト期限ナル觀念トハ相一致セザル觀念ナリ此之ヲ違反シテ所有

權ニ期限ヲ附スルモ妨ナシトスル者ハ曰ク所有權移轉ヲ法律行為ニシテ其效力發生又ハ消滅ノ期限ニ際ル場合ニ於テハ現在ノ所有者ハ未タ其所有權ヲ失ヒタルモノニ非サルヲ以テ物ヲ事實的消費毀損又ハ法律上の讓渡物權設定處分スルハ其權内ニ在リ勿論所有權物處分シタルモノハ期限附法律行為ノ結果トシテ其負擔シタル期限ニ至リ所有權ヲ移轉スヘキ債務ニ之ヲ履行スルコト能ハサルカ故ニ之ニ因リテ生シタル損害ハ之ヲ賠償セタルハガラ然レモ此ト如キハ所有者カ其貸貸ニ付シタル物ヲ處分シタル場合ニ於テモ亦生スヘキ法律關係ニシテ所有者ノ負擔シタル債務ノ結果ニ過キス之アルヲ故ヲ以テ所有權ハ其要素タル處分ノ權能ヲ失ヒタルモノト爲スヘカラス故ニ期限ヲ附スルコトハ必スシモ所有權ノ性質ニ反スルモノニ非スト予ヲ以テ之ヲ觀ルニ所有權移轉ヲ法律行為ト雖モ其履行ニ付キ期限ヲ附スルハ何等ノ妨アルコトナシト雖モ其效力發生又ハ消滅ニ期限ヲ附シ其結果トシテ所有權ヲ有期ト爲ストハ法律上其效力ヲ認ムルコト能ハス蓋シ早晚消滅スヘキ所有權ヲ有スル者ハ物ノ價格ヲ増進スルコトヲ付利害ヲ感スルコト少カル

ヘキヲ以テ所有權ニ期限ヲ附スルトキハ所有者ハ自ラ其改良又ハ利用ヲ計ルノ念慮ヲ喪失スルニ至ルモノナリ然レモ物ノ改良又ハ利用ヲ爲スコトハ公益上極メテ必要トスル所ナルヲ以テ所有者ヲシテ物ノ改良又ハ利用ヲ爲スノ念慮ヲ失ハシムルカ如キ行為ハ公益ニ反スルモノト謂ハサルヘカラス或ハ所有者カ物ノ増價ヲ計ラサルニ至ルハ一ニ處分ノ權能ナキニ因ルモノト爲シ處分ノ權能アルコトヲ認メタル以上ハ復タ公益論ヲ唱フルノ餘地ナシト論スル者アルヘシト雖モ損害ヲ賠償スル責任ノ下ニ於テ有スル處分ノ權能ナルモノハ所有者ヲシテ舊物ノ改良又ハ利用ヲ爲スニ至ラシムルモノニ非ナルナリ又或ハ所有權ニ解除條件ヲ附スルコトヲ認メナカク期限ヲ附スルコトヲ否認スルハ理由ナシト雖モ所有者ナキニ非ナルヘシト雖モ解除條件ハ時ニ成就セサルコトアルヘキモノナルカ故ニ所有者ハ萬一テ條件爲メ物ノ増價ハ利害ヲ感スルモノナリト雖モ期限ヲ確定ニシテ所有者ニ何等ヲ希望ヲ存セズ隨テ之ヲシテ放任ノ態度ニ陷ラシム是レ條件ヲ附スルコトヲ認ムルニ拘ハラヌ期限ヲ附スルモノト否認スル所以ナリ

第二期限ノ效力 法律行為ニ期限ヲ附帶セシムルト否トノ自由ヲ有スルヲ以テ期限附法律行為ニ於テハ期限ノ效力如何ハ之ヲ附帶セシメタル當事者ノ意思如何ニ依ルモノトス當事者ノ意思ニシテ法律行為ノ履行ヲ期限ニ繫ラシムルニ在リシトキハ期限ノ到來ハ單ニ法律行為ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルノ效力ヲ生シ若シ又當事者ノ意思ニシテ法律行為ノ效力ノ發生又ハ消滅ヲ期限ニ繫ラシムルニ在リシトキハ期限ノ到來ハ法律行為ノ效力ヲ發生シ又ハ之ヲ消滅セシムルノ效力ヲ生スルモノナリ而シテ期限ナルモノハ條件ト異ナリ到來スヘキコト確定スルモノナルカ故ニ始期ヲ附シタル法律行為ヲ爲シタル者ハ其行為ヲ爲スノ確定意思ヲ有シ唯其履行ヲ或時期マテ延期セント欲シタルモノト看ルヲ以テ最モ其意思ニ適合スルモノト謂ハサルヘカラス故ニ始期附法律行為ニ於テハ特ニ反對ノ意思アリタルモノト看ルベキ場合ノ外ハ期限ノ到來ハ履行請求ヲ爲スコトヲ得ルノ效力ヲ生スルモノト爲ス其カヘカラス第一三五條第一項之ニ反シテ終期ヲ附シタル法律行為ヲ爲シタル者ハ其行為ノ

效力ハ或時期ニ至リ消滅スヘキコトヲ欲シタルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ終期附法律行為ニ於テハ期限ノ到來ハ常ニ法律行為ノ效力ヲ消滅セシムルモノナリ第一三五條第二項第百三十五條ニ於テハ第百二十七條第三項ノ如キ規定ヲ掲ケサルヲ以テ始期ハ常ニ履行ニ關スルモノト爲スカ如シト雖モ同條ノ規定ハ公ノ秩序ニ關スルモノニ非サルカ故ニ當事者ノ反對ノ意思ヲ許スヘキハ勿論ナリハ期限ハ附帶條件ニ異ナルモノト爲スルモノハ其效力ノ發生又ハ消滅スルコトカ確定スルコトノ外ハ法律上ノ關係ハ條件附法律行為ニ於テ條件ノ效力既往ニ遡ラサル場合ト相類似スルモノナルヲ以テ條件ヲ説明スルニ當リテ述ハタル理論ハ之ヲ期限附法律行為ニ準用スルコトヲ得ヘシ故ニ今更ニ之ヲ重説スルノ勢ヲ取ラサルヘシ又法律行為ノ履行カ期限ニ繫ル場合ニ於テハ履行カ延期セラルルノ外ハ法律上ノ關係ハ全ク單純ニ法律行為ト異ナルコトナキヲ以テ是レ亦別ニ多言ヲ費スノ要ナカルヘシハ當事者

第三期限ノ利益

期限附法律行為ニ於テ其期限ノ利益ハ何人ノ爲メニ存スルモノナルヤハ當事者ノ意思又ハ法律行為ノ性質等ニ依リテ之ヲ見サルヘカラス例ニ無償ノ寄託ニ期限ヲ附シタル場合ニ於テハ期限ノ利益ハ債權者ノ爲メニ存スルモノ又無利息ノ貸借ニ期限ヲ附シタル場合ニ於テハ其利益ハ債務者ノ爲メニ存スルモノ若シ又銀行ニ定期預金ヲ爲シタルカ如キハ其期限ハ債權者債務者雙方ノ利益ノ爲メニ存スルモノト謂ハサルヘカラス然レトモ期限ハ多クハ法律行為ノ履行ニ付テ之ヲ附スルモノニシテ履行ヲ延期スルコトハ多クハ債務者ノ利益ナルヲ以テ概シテ言ヘハ期限ハ債權者ノ利益ノ爲メニ存スルモノト謂フコトヲ得ヘシ故ニ法律ハ期限ハ債務者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノト推定スルコトト爲シタル第一三六條第一項但是レノ推定ニ過キタルヲ以テ利害ノ關係ヲ有スル者ハ反證ヲ舉ケテ此推定ヲ覆スコトヲ得ルハ言フ須タス

三 期限ノ利益ノ消滅

期限ノ利益ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

(イ) 期限ノ利益ヲ有スル者カ之ヲ抛棄シタルトキ(第一三六條第二項) 凡ソ利

益ヲ有スル者カ其利益ヲ拋棄スルコトヲ得ルハ勿論ナリ以テ期限ノ利益ヲ有スル者ハ其利益ヲ拋棄スルコトヲ得ルモノナリ但自己ノ利益ヲ拋棄スルカ爲メニ他人ノ利益ヲ害スルコトアルヘカラサルカ故ニ期限ノ利益ヲ拋棄スルカ爲メニ相手方ノ利益ヲ害スルトキハ之ヲ拋棄スルコトヲ得ヌ例ヘハ有利息貸借ニ於テ債務者カ期限内ニ返済スルカ爲メ債權者ヲシテ資金利用ノ途ヲ失ハシムルニ至ルトキハ債務者ハ債權者ノ此不利益ニ對スル返済ヲ爲スニ非ザレハ期限ノ利益ヲ拋棄スルコト能ハサルモノトス

(四) 相續人カ限定承認ヲ爲シタルトキ(第一〇三二條) 相續人カ限定承認ヲ爲シタル場合ニ於テハ相續上ノ權利義務ヲ決済シタル後ニ非ザレハ受遺者ニ返済スルコト能ハサルヲ以テ速ニ之ヲ清算スルノ必要アリ故ニ法律ハ返済期前ノ債權ト雖モ之カ返済ヲ爲セキモノト爲シタルナリ

キ(第一〇五〇條) 此場合ニ於テモ亦成ルベク速ニ清算ヲ爲スノ必要アルニ因  
 乙 債務者カ期限ノ利益ヲ主張スルコトヲ得サル場合(第一三三條第一號) 破産ノ場合ニ於  
 テハ速ニ債權債務ヲ清算シ破産手續ヲ結了スルノ必要アルノミナラズ債務者  
 ハ破産ノ宣告ニ因リ債權者ノ信用ヲ損シタルモノナルカ故ニ期限ノ利益ヲ享  
 クヘキ基礎ヲ失ヒタルモノナリ  
 (ロ) 債務者カ擔保ヲ毀滅シ又ハ之ヲ減少シタルトキ(第一三三條第二號) 債權  
 者ハ擔保ヲ信用シテ期限ヲ與ヘタルモノナルニ之ヲ毀滅シ又ハ減少スルカ如  
 キハ債務者ハ債權者ノ信用ヲ値セサルモノナリ故ニ期限ノ利益ヲ喪失セシメ  
 タルナリ  
 (ハ) 債務者カ擔保ヲ供スル義務ヲ負フ場合ニ於テ之ヲ供セザルトキ(第一三三  
 條第三號) 此場合モ亦債權者ノ信用ノ基礎ヲ破リタルモノナルカ故ニ其信用  
 ヲ墜クヘキ理由ヲ失ヒタルナリ

## 第五章 期間

法律關係ニ於テハ時ノ經過ニ因リ種種ノ效力ヲ生スルコトアルモノナリ故ニ  
 期間ノ計算ハ頗ル重要ノ事ト爲ス  
 期間ヲ計算スルニハ事實ノ起リタル瞬間ヨリ起算シ分時ヲ以テ之ヲ計算スル  
 ト事實ノ起リタル瞬間ヲ問ハス暦日ヲ以テ之ヲ計算スルトノ二様ノ方法アリ  
 前者ハ極メテ精確ナルモ時ニ實際ノ便利ニ適セザルコトアリ後者ハ稍ヤ不精  
 密ナリト雖モ世俗ハ却テ之ヲ實用スルモノ多シ  
 期間ヲ定メタル法令裁判上ノ命令又ハ法律行為ニ於テ併セテ其計算方法ヲ定  
 メタルトキハ其計算方法ハ法令裁判上ノ命令又ハ法律行為ノ一部ヲ爲スモノ  
 ナルカ故ニ無論其定メタル所ニ從ハサルヘカラス若シ法令裁判上ノ命令又ハ  
 法律行為ニ於テ期間ヲ定メナカラ其計算方法ヲ定メザリシトキハ如何ニシテ  
 期間ノ計算ヲ爲スヘキヤ此場合ニ於テハ法令裁判所又ハ當事者ハ期間ノ計算  
 方法ハ之ヲ民法ノ定メル所ニ譲リタルモノト看サルヘカラスナルカ故ニ民法ノ

定ムル所ニ從ヒテ其計算ヲ爲ササルハカラス(第二三八條)  
以下期間ノ計算方法ニ關シ民法ノ定ムル所ヲ略述スルニ當テハ其間ノ計算  
一 期間ノ起算點  
(イ) 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ起算スルニ事ニ第一  
三九條蓋シ分時ヲ以テ期間ヲ定ムタルトキハ法令令裁判所又ハ當事者ハ精密ニ  
期間ヲ計算スルノ意アリタルモノト看サルハカラス故ニ其起算點モ亦精密ニ  
期シ即時ヨリ計算スルヲ以テ相當ト爲スヲ以テナリ

(ロ) 期間ヲ定ムルニ日、週月又ハ年ヲ以テシタルトキハ事實ノ起リタル日、翌  
日ヨリ起算スルニ事ニ第一(第四〇條本文蓋シ期間ヲ定ムルニ日、週月又ハ年  
ヲ以テシタルトキハ其意分時ノ精密ヲ期スルモノニ非スト謂ハサルハカラサ  
ルヲ以テ一日ニ足ラサル端數ハ之ヲ除算シ以テ計算ノ便ニ從フヲ相當ト爲シ  
タルナリ但期間ノ初日ヲ算入セサルハ一日ニ足ラサル端數ヲ計算スルカ如キ  
細微ナル計算ヲ爲ササルノ趣旨ニ出ツルカ故ニ期間カ午前零時ヨリ始マリ其  
日ヲ算入スルモ端數ト爲ラサル場合ニ於テハ之ヲ除算スルノ必要ナキヲ以テ

本カ或他ノ一國ト開戦セル場合ニハ同盟國ノ一方ハ嚴正中立ヲ守ルヘシトノ  
規定ノ如キハ日本又ハ英國カ或一國例ヘハ獨逸ト開戦セル事實ニ依リ效力ヲ  
生スヘキモノトス

#### 第四節 戦争開始ノ交通通商ニ及ボス效果

同盟國一タヒ開戦スルトキハ公使ヲ初トシ總テノ外交官領事官ハ敵國ヲ去リ茲  
ニ兩國ノ交通ヲ杜絶スルヲ原則トス然レトモ一箇人ハ敵國人ト通商スルコト  
ヲ得ルヤ否ヤニ關シニ學派アリ第一派ハ曰ク兩國開戦後ハ原則トシテ兩國民  
ノ交通通商ヲ認マス故ニ特別ノ許可アルモノノ外ハ禁止ヲ待タズシテ禁セラ  
レタルモノト看ルヘシ第二派ハ曰ク戦争ハ國家間ニ成立スルモ箇人ト箇人ト  
ノ間ニハ敵對關係ナシ故ニ開戦ノ事實ニ依リ直チニ兩國ノ箇人間ニ於ケル通  
商ハ停止セラルヘキニ非ス唯特ニ國家ノ禁止セルモノニ限リ禁止セラレタリ  
ト爲シ其他ハ禁止セラレサルモノト認ムヘシト此兩派ノ説ハ敵國通商即チ「  
レーディング・ダウ・イズ・ウィズ・ミー」(Trading with enemy)ナル題目ノ下ニ研究セラレツ



ツアル國際法上ノ一問題ナリ依テ少シク之ヲ研究セシムルニテハ第一、通商廢止通則說、此說ハ英米派ノ殊ニ主張スル所ニシテ大陸ニテモ佛和西等ニ屬行セラルル面ニテ現今ニ於テハ最も勢力アル原則ナリ而シテ前述セラルカ如ク兩國箇人間ノ通商の場合ニ依リテハ一般ノ通商又場合ニ依リテハ一定ノ場所一定ノ物品又ハ一都ノ人又ハ會社ニ限リテ許可セルモノノ外ハ之ヲ禁止セルモノト看ル故ニ戰爭中兩國箇人ノ互ニ爲セル商業取引又戰爭中ニ爲セル契約ハ平和回復後ニ實行スルキモノニテモ一切無効トシ敵人ノ身體又ハ財產ヲ保險スルコト、兩國間ニ手形ヲ組ムコト、敵國ノ手形ヲ買入ルルコト、資本ヲ輸入スルコト等苟モ特許アルニ非ザレハ一般ニ禁止セラレタルモノト看ルナリ又第三者ノ手ヲ經テ敵國ト商業ニ從事スルカ如キ間接ノ取引ノ如キモ禁止セラレタルモノト看做スハ英米派ノ主義ナリ先例ヲ以テ之ヲ説明センニ千七百九十九年、フーブ號事件ニ於テストウエル公ハ判決シテ曰ク一國ノ公敵ト通商スルコトハ主權者ノ特許アルニ非ザレハ總テ不法ナリ此原則タルハ歐洲諸國ノ多數ニ依リテ認メラレタルモノナリ云云ト千八百十四年「ビッド」號

事件ニ關シ「ジョンソン」氏判決シテ曰ク戰爭ノ狀況ニ於テ一國ノ各箇人ハ他國ノ各箇人ヲ其敵トシテ認メサルヘカラス是レ其自國ノ敵ナルカ故ナリト此等ハ英米派ノ論據ナリ此ノ如ク敵國通商ハ嚴酷ニ禁止セラレトモ例外ナキニ非ス即チ戰爭ノ結果トシテ生セル必要上ノ契約例ヘハ俘虜カ生活ノ必要ニ迫リテ敵國ニ於テ爲セタル契約ノ如キハ有效ト看做サル此英米主義ノ實例ヲ舉ゲン「タリミア」戰爭ニ於テ佛國ハ露國ト電信ノ交通ヲ開クコトヲ宣告シ露國ハ政治上ニ關係ヲ有スル交戰國人民間ノ發信ヲ禁シ郵便電信等ニ於テ之ヲ受タルコトモ禁止シタレトモ之カ爲メニ露佛兩國人ノ通商上ノ通信ヲ爲スコトヲ許シ又千八百六十年英佛同盟鴉片戰爭ニ於テハ此兩國ハ清國ニ對シテ通商ヲ公許スルコトヲ宣言シタリ此等ハ皆特許ニ依リ人民カ通商スルコトヲ得ルトスルノ實例ナリ

第二、戰時自由通商說、此說ハ大陸派中獨逸ニ於テ一部ノ學者ニ依リ唱道セラルルモノニシテ「フタル」ノ如キハ交戰國人民間ニ於テハ通商ノ自由ヲ原則トシ唯國カ特ニ法令ヲ以テ禁止セルモノノミ自由ニ非スト爲ス、其理由ト爲ス



所ニアリ即チ前述セル如ク戰爭ハ箇人ト箇人トノ關係ニ非スト云フ理由ト(ホ  
ルゼンドルフ「卷四、八十四節」)「イデル博士」ノ說元來國際間ニ於テハ通商ノ理由  
ヲ原則トスヘシ通商ノ自由ハ人類ノ天然ニ享有スル所ニシテ戰爭ニ依リ急ニ  
消滅スルノ理ナシト云フニ在リ此說ハ獨逸ニテモ一般ニ行ハレサレトモ漸漸  
勢力ヲ有スルノ傾アリ日清戰爭ノ際ニ於ケル日本ノ方針ハ此ニ主義中ニ於テ  
第二主義ヲ採用セリ即チ明治二十七年八月十日ノ勅令第一條ニ清國臣民ハ帝  
國內ニ於テ平和適法ノ職業ニ従事スルコトヲ得ルト爲シ帝國內ノ清國民國際  
法ヨリ云ヘハ敵性ヲ有セサルモノ其理由ハ後ニ述フヘシ又帝國臣民ノ清國ト  
通商スルニ關シテハ何等ノ禁止令ヲ發セス唯事實上ニ於テ此敵國通商ヲ厭  
セリ換言スレハ禁止令必要ナシトノ主義ヲ採用セリ其實例ハ日本人ノ戰爭ノ  
當初清國ニ石炭ヲ賣リタルヲ厭認セシニ依リ證明スルコトヲ得トセリ

### 第五節 開戦ノ公債及ヒ私債ニ及ホス影響

敵國政府若クハ人民ニ對スル交戰國又ハ人民ノ負債ニ付テハ古代ハ開戦ト共

ニ沒收セララルヘキモノト爲シタリシカ「グローチヤス」(「シンケルシート」)等皆其沒  
收スヘキモノニ非サルコトヲ論セリ英國ノ如キハ海上ニ於テ敵國財産ハ中立  
國船舶ニ在ル場合ノ外通常沒收スルノ原則ヲ固執スルニ拘ハラステニ交戰國  
ノ負債ヲ無効トセサルノ原則ヲ採リ戰爭中ハ單ニ其負債ニ關スル利子ヲ沒收  
ヲ停止スルモ平和回復後ハ直チニ其效力ヲ回復スルモノト爲セリ  
今一二ノ先例ヲ舉ケンニ千八百五十四年「クリミア」戰爭ノ際英國ノ一議員ハ議  
會ニ勸議ヲ提出シ英國ノ負擔セル露國對和蘭ノ公債ノ辨償義務ヲ廢棄スヘシ  
ト論シタリ然ルニ此勸議ハ棄却セラレタルカ其理由ハ國際上信義ヲ重スルハ  
一國ノ名譽上必要ナリト云フニ在リキ  
又千八百七十年「丁抹人」ニシテ英國ニ歸化セル「ラオル」ナル者合資會社ヲ組織  
シテ商業ヲ營ミシカ「丁抹人」(「オックス・フォルム」)ナル者英國ニ在リテ同會社ニ對シ  
負債ヲ爲シタリ此負債ノ辨償ニ關シ「ラオル」ヨリ「ロバート・グレン」ノ裁判所ニ  
訴訟ヲ提起シ「オックス・フォルム」亦之ニ對シテ反訴ヲ起セリ然ルニ此兩訴未ダ  
判決セラレサルニ當リ千八百七十年「丁抹人」英國トノ間ニ戰爭起リ「丁抹政府」ハ

命令ヲ發シ英國臣民ニ辨償スヘキ一切ノ負債ハ之ヲ丁抹國庫ニ辨償スヘキコトヲ命セシヲ以テ「オックス・フォルム」ハ該金額ヲ同國ノ金庫ニ納メタルニ戰爭後其負債ニ關シ再ヒ英國ニ於テ訴訟ヲ提起セラレタリ此裁判ニ於テ裁判官ノ判決スル所ニ依レハ負債ヲ沒收スルノ權利ハ「グット」ノ論據ニ基クモノナレトモ「グロウチヤス」ハ之ヲ認メス「ブッフュンドルフ」及ヒ其他ノ大家モ亦之ヲ論難スル所ニシテ斯ル沒收ハ何レノ時ニ於テモ行ハレタルコトナク萬國ノ慣例ニ悖ルモノナリ云云ト

## 第六節 内國ニ在ル敵國臣民ニ及ホス開戦ノ效果

開戦ノ曉ニ敵國ニ在ル自國臣民ヲ呼戻スハ其本國ノ權内ニ屬ス然レトモ此場合ニ敵國ハ其敵國臣民ノ歸朝ヲ抑留スルコトヲ得但此權利ヲ行フノ範圍ハ其臣民ノ歸朝カ其國ノ存在ニ妨害ト爲ル場合ニ限ル然レトモ之カ沿革ヲ研究スルトキハ極端ニ此抑留ノ權ヲ行使シタルコトアリ例ヘハ千八百三年那破翁第一世ハ佛國在留ノ英國人年齡十八歳以上六十歳以下ノ者ヲ俘虜ト爲スト宣言

シ實際千八百十四年マヲ抑留シタルカ如シ此ノ如キ極端ナル主義ハ漸次寛大ト爲リ交戦國ハ一方ニ於テハ敵國臣民カ軍事ノ秘密ヲ漏洩センコトヲ恐レテ一定ノ時期ヲ定メ之ヲ其本國ニ退去セシメ退去セサル者ハ場合ニ依リテハ之ヲ處罰シ又ハ之ヲ追放スル等ノ場合アリ此ノ如ク古來原則一定セス又最近ノ實例ニ依レハ千八百七十年佛國ハ其國內ニ生活スル獨逸人民ヲ國境外ニ放逐シタルニ反シ千八百七十七年露土戰爭ノ際ニ於テ露國ハ土耳其人ニ現行法規ノ保護ノ下ニ引續キ平和ノ營業ニ從事スルコトヲ許シタリ斯ク全部又ハ一部ノ追放ハ今日モ尙ホ場合ニ依リテハ交戦國ノ實行スル所ナルモ最近法理ノ傾向ハ敵國臣民ノ在留ヲ許スニ在ルカ如シ日清戰爭ノ際ニ於テハ所謂折衷主義ヲ採リ登錄ヲ爲シタル者ニ限り公安ヲ害セサル程度トシ法律ノ範圍内ニ於テ引續キ營業ヲ爲スコトヲ許シタリ

## 第二編 人及ヒ物ノ敵性

敵性 (Enemy Character) トハ交戦國ノ一方ニ取リテ敵對ノ地位ニ在ルコト換言ス



最近明晰ナル研究法ヲ採ルニ本國ノ戰由ヲ歸屬シテ夫レノ主權ニ非  
第一ニ非常國際法ニ於テ敵國ノ敗北ヲ事實ニ、敗性ニ、充分ナル決定標準ニ、非  
第二ニ、常國際法ニ於テ敵國ノ敗北ヲ事實ニ、敗性ニ、充分ナル決定標準ニ、非  
第三ニ、常國際法ニ於テ敵國ノ敗北ヲ事實ニ、敗性ニ、充分ナル決定標準ニ、非  
第四ニ、常國際法ニ於テ敵國ノ敗北ヲ事實ニ、敗性ニ、充分ナル決定標準ニ、非  
第五ニ、常國際法ニ於テ敵國ノ敗北ヲ事實ニ、敗性ニ、充分ナル決定標準ニ、非  
第六ニ、常國際法ニ於テ敵國ノ敗北ヲ事實ニ、敗性ニ、充分ナル決定標準ニ、非  
第七ニ、常國際法ニ於テ敵國ノ敗北ヲ事實ニ、敗性ニ、充分ナル決定標準ニ、非  
第八ニ、常國際法ニ於テ敵國ノ敗北ヲ事實ニ、敗性ニ、充分ナル決定標準ニ、非  
第九ニ、常國際法ニ於テ敵國ノ敗北ヲ事實ニ、敗性ニ、充分ナル決定標準ニ、非  
第十ニ、常國際法ニ於テ敵國ノ敗北ヲ事實ニ、敗性ニ、充分ナル決定標準ニ、非

住ノ希望ヲ有スルコトヲ要スルニ而シテ第二ノ要素則チ永久住ノ希望(Animo  
Permanendi)ノ最も必要ナリ故ニ實際上ノ居住ハ極メテ短期ナルモ此永久住ノ希望  
ノ證明セラルタルトモハ定住ヲ決定スルモトモ先例ヲ以テ之ヲ證明セシムル  
七百八十一年二月ホフトモハ定住ヲ決定スルモトモ先例ヲ以テ之ヲ證明セシムル  
著セルニ恰モ其二三日後ニ該島ハ英軍ニ依リテ占領セラレタリ故ニ彼カ和國領ト  
シテ該島ニ居住セシムル僅僅二三日後カレトモ其來住ノ意思ハ明カニ和國領ノ同  
島ニ永久居住スルニ在リシニ以テ彼和國領ニ定住ヲ有スル者國法ヲ解決セリ  
和國人即チ當時ハ英國ノ敵トシテ取扱ハレタリタリ故ニ其國領中ニ和國人  
此永久住ノ意思ハ如何モシテ之ヲ確定スルハ其國領中ニ和國人  
場合ト又之ヲ事實上推測シ得ル場合トシテ和國人ニ對シテ先例ヲ舉ゲンニ千七百九十四年米國  
有力ナル材料ニ長年月ヲ居住カリス先例ヲ舉ゲンニ千七百九十四年米國  
ノ一會社員タル米人ハ其國領中ニ和國人ニ對シテ先例ヲ舉ゲンニ千七百九十四年米國  
ノ任務ヲ執リテ彼ハ其國領中六箇月間滞在セリ其存セシメ以テ其妻子ニ之ヲ  
米國ニ遣シ置キタリ然レバ彼ハ其國領中六箇月間滞在セリ其存セシメ以テ其妻子ニ之ヲ  
米國ニ遣シ置キタリ然レバ彼ハ其國領中六箇月間滞在セリ其存セシメ以テ其妻子ニ之ヲ

年間佛國ニ於テ其任務ヲ執リシハ英佛戰爭ノ起ルニ迫リ其財產及ヒ其會社ノ財產ハ英艦ニ依リテ拿捕セラレタリ「サト、ウオ、グロ」ニ判決下シタル「ムレ」ハ長年月ノ滞在ニ依リ其米國人即チ中立國ノ國性ヲ留保スル事ヲ障害セラレタリ故ニ彼ハ佛國定住ノ者トシテ戰性ヲ得ルモノトス其國以上論シタルカ如ク定住ハ戰性決定ノ第一標準タルヲ以テ吾人ハ夫ノ原則ヲ設定スルコトヲ得「ウオ、カ」小一〇八頁參照即チ戰地又ハ敵軍占領地ニ定住ハ有スル外國人及ヒ敵國人ハ敵トシテ取扱フコトヲ得ヘシ此原則中ニ外國人ト云ヘバ中立國人及ヒ一方ノ交戰國人ヲ謂ス即チ戰地又ハ敵軍占領地ニ在ル中立國人ハ敵ト看做サレ又自國人ニテモ敵ト看做サルモノト英國國際法第三 戰地定住ノ外國人ハ戰性ハ其地ヲ去ルニ因リ直チニ消滅スルニ因リ直チニ拋棄スルコトヲ得ルモノト然レトモ未タ其定住ヲ取拂ハサル間ハ戰性ヲ失ハサルモノトス此ノ如ク戰性ハ其定住ヲ取拂フニ因リ直チニ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ルカ故ニ戰爭前ニ戰地ニ定住スル者モ戰爭後直チニ定住ヲ取

拂フトキハ全ク戰性ヲ得サルコトアルヘシ(一定ノ立退期間ニ退去シタルトキノ如シ千八百四年ノ「オリヤン」號事件ニ依ルニ英國人「ラフ、シン」ニ在リ商業ニ從事セルカ英國ト佛國トノ開戦セントスルヲ見テ其店舗ヲ閉鎖シ將ニ英國ニ歸ラントセリ然ルニ佛國ハ之ヲ抑留シテ歸サス其間ニ彼ノ財產タル「オリヤン」號ハ英艦ニ依リ敵船トシテ沒收セラレタリ「サト、ウオ、グロ」ハ其財產ノ解放ヲ命ジテ曰ク戰地ヨリ退去スルカ爲メニ總テノ方法ヲ盡シタルヲ以テ彼カ開戦前戰地ニ住ミ戰後佛國ニ依リ抑留セラレタル事項ニ因リ之ヲ敵トシテ財產ヲ沒收スルハ不法ナリト「英國人」國性ハ前章ニ同イヤ又敵國ヲ去ルニ因リ其戰性ヲ失ヘル一例アリ即チ千七百七十一年米人「ジョ、シン」英國ニ來リ一商人トシテ倫敦ニ居住シ米國獨立戰爭開始スルニ及ビ佛國ニ移轉シ千七百八十三年再ヒ英國ニ歸リ千七百八十五年ニ英國法ニ依リ米國ハト認メラレ且千七百九十年ニ米國領事ト爲レリ而シテ千七百九十七年九月マテ英國ニ留マレリ是ヨリ先キ千七百九十五年「ジョ、シン」所有ノ船舶ハ東洋貿易ニ從事シ米國船トシテ紙類ヲ東邦ニ運搬シ「ハンブルク」行ノ荷物ヲ「ハタビ

ヤニ於テ積込ミ「コウ」ニ入レントスルトモ英國船ニ依リテ拿捕セラレタリ時ニ  
 千七百九十七年十一月ナリ其拿捕ノ理由トスル所ハ該船ハ英國船ナラズ敵國  
 ト通商ヲ爲シタリト云フニ在リ「オランダ」船「スコープ」ヲ判決ニ依リテ「若シ」  
 シン「ニシテ」捕獲ノ當時英國ニ在リシナラハ彼ハ英國人ト看做サレ其財產  
 亦英國性ヲ有スルモノト看做サルヘシ然レトモ氏「此」拿捕ニ先ク二箇月  
 前ノ名義ニ依リテ正當ノ捕獲物ト爲ル「シ」然レトモ氏「此」拿捕ニ先ク二箇月  
 既ニ歸來セシヲ以テ其定住ニ依リテ得タル英國人ノ國性ハ消滅セリ何トナレ  
 ハ定住ニ依リテ得タル國籍ハ土地ヲ去ル瞬間ヨリ消滅スルモノナリトモ氏  
 第四「單ニ」敵地ヲ去ラントハ希望ハ敵性ヲ變更セズ「モ」衣冠ニ依リテ  
 先例ヲ以テ之ヲ證センニ英人「ニ」スリ「英國」占領「ケ」ゾ「モ」永住ヲ定メ其  
 後和蘭カ「ケ」ゾ「ヲ」回復セル後モ引續キ亞米利加領事トシテ同地ニ居住セリ後  
 英國再ヒ和蘭ト開戦スルニ及ビ其所有船舶ハ英艦ニ依リ拿捕セラレタリ此當  
 時彼ハ自ラ米國ナル中立國ノ人民ナルカ故ニ解放セラレヘキトモ氏主張セリ  
 而シテ其證トシテ提供セル材料中彼カ「ケ」ゾ「ヨリ」米國ニ移轉スル「ヲ」希望ヲ述

タル書翰ヲ提出セリ「サ」タル「ス」コト「ノ」判決「ニ」曰ク此「ノ」如キ場合ニ於  
 テ沒收ヲ免ルルカ爲メニハ敵地ヲ退去シ「ツ」アルコトヲ證明スルニ足ルヘキ  
 事實アルコトヲ要ス「單ニ」一片ノ宣言書ハ如キハ何等ハ效力ナキモノトモ氏故ニ  
 彼ハ蘭人ナル敵人トシテ取扱ルベシト  
 第五「領事」タルノ故ヲ以テ定住ニ依リテ得タル敵性ヲ免ルルコト能ハス  
 前ニ舉ケタル「ニ」ル「ス」リ「即チ」ケ「ト」ゾ「ニ」於テ米國領事「ヲ」然レトモ其代表  
 スル米國ノ國性ヲ有スル能ハスシテ其定住地タル和蘭ノ國性ヲ得タルカ如キ  
 領事ト雖モ商業的定住ニ依リテ得タル國性ヲ免ルル能ハス「又」在「ン」デ「ア」ン「チ」  
 「ヲ」號事件ニ於テモ米國領事「ハ」印度ニ於テ其米國人タル國性ヲ主張スル能ハス  
 「リ」左「レ」ハ「ハ」ル「ン」ド「カ」英國海事裁判所「ノ」爲メニ起草セル海上捕獲規程第二  
 十七條ニ規定シテ曰ク領事「ハ」商業的定住ハ其代表スル國ト同一「ニ」非「ス」トモ  
 第六「一」交戦國ノ臣民ト他交戦國人トノ差「ハ」實ニ「一」同「ニ」非「ス」トモ氏  
 例ハ「日」清戦争ノ際「ニ」日本ニ留マレル清國人ト日本人ト如何ナル差異アリ  
 ヤ云フニ此清國人ハ日本ニ於テ普通合法ノ商業ヲ營ミ又ハ居住スル範圍内

ニ於テハ日本人ト異ナルトオシ其差アルハ此ノ如キ場合ニ彼等ニシテ日本軍隊ニ編入セラレ清國ニ敵スルコトアルトキハ彼等ハ其本國法ニ依リ謀叛人トシテ取扱ハルルコト是カラ「ラッセルカー」小一頁參照

第七、中立國ニ定住スル敵國人ハ其通商及利益ハ中立的ナル範圍内ニ於テ中立人トシテ取扱ハルル英國特許事典(註)卷一、戰事ノ部ニ載ル條約第二先例ニ依ルニ千八百四年英國ト和蘭トノ戰爭ノ際、チーグセルタースコット「ハ」リスベト「グアン」アル「ト」ニ在リテ解放ヲ命セシコトアリ此被捕船ノ所有者ハ和蘭ノ出生ニシテ其船舶モ敵商月前マデハ和蘭人ノ所有ニ屬セバ漁船ニシテ又現在和蘭ノ海岸ニ於テ漁業ニ從事セシモノナリ然ルニ其真所有者ハ七年間普羅西ニ定住セシコトノ理由ニ依リ中立國人トシテ取扱ヒ且其船カ中立違反ノ業務ニ從事セナリシヲ以テ之ヲ解放セリ

唯茲ニ注意スヘキハ敵國人ハ開戰後ニ得タル(Flagrant Delo)中立地定住ノ爲メニ中立國人タル特權ヲ得ル能ハサルコト是ナリ

第八、敵ノ陸軍海軍又ハ文職ニ從事スル中立國人ハ敵國臣民トシテ取扱フコト

レタル外界ノ一部分ニ過キス此外界ノ一部分ハ或ハ人間ニ都合善キ形ニテ存在シ又ハ都合宜シカラサル形ニテ存在ス之ニ人ノ所爲ヲ加ヘテ人ノ欲望ヲ充タスニ適當ナル形體ノモノト爲シ又ハ適當ナル地位ニ置キテ始メテ財貨タルノ性質ヲ得セシメ或ハ之ニ依リテ財貨タルノ性質ヲ増加スルコトヲ得ルモノヲ稱シテ經濟上ノ財貨ト謂フ而シテ人爲ニ依リテ財貨タルノ性質ヲ得又ハ財貨タルノ性質ノ増加ナルルニハ形ヲ變スルコトアリ場所ヲ轉スルコトアリ先ツ人爲ニ依リテ適當ナル形ヲ得ルモノノ例ヲ舉クレハ銅又ハ鐵ノ加キモノ即チ是ナリ此等ノ物ハ其自然ノ有様即チ鐵山ニ在リテ銅鐵鐵礦タルトキハ其儘ニテハ全ク人ノ欲望ヲ充タスコト能ハス或ハ充タスコトアルモ誠ニ僅少ナリ骨董師採リ間ニ在リテハ奇形ナル礦物ヲ愛シ或ハ之ヲ賣買シテ其欲望ヲ充タスコトアルハキモ此以外ノ人ニ取リテハ斯ル礦物ヲ愛スル者ナシ然ルニ之ヲ精製シテ家具又ハ銅線ト爲ストキハ之ニ依リ人ノ欲望ヲ充タスコト鮮少ナラス特ニ文明の交通機關ニタル電線ノ如キハ專ラ銅線ヲ用タルモノトス又鐵ノ如キモ之ト同様ニシテ礦物ノ儘ニテハ殆ト全



法學博士梅謙次郎外博士三十餘名編述

# 法律辭書

全 正價金拾圓  
十 一册正價金壹圓  
册 郵税金十錢

第一册 八月二十五日發行

●用紙四六二倍判●紙數二千餘頁●語數三千五百餘  
●發行期ハ本年八月ヨリ隔月一冊ツ、來年十二月ヲ期シテ全部完成ス  
本書ハ我邦法學界ノ泰斗ニシテ各般法律起草ノ任ニ當ラレタル梅博士カ諸般ノ法典完成セルヲ期ト  
シ公法、私法ノ各専門ノ博士學士三十餘名ト相謀リ各語ニ英佛獨ノ原語ヲ加ヘ數回ノ討議  
ヲ重ネテ編述セラレタルモノナレハ各自必要ノ場合ニ際シ其索メント欲スル語辭ノ説明ハ恰モ物ヲ養  
中ニ探クルカ如シ冀クハ一本ヲ購ヒテ机上ノ餘師ト爲シ玉ハンコトヲ

編纂所

東京市神田區裏神保町七番地

法典質疑會

發行所

東京市神田區裏神保町七番地

書肆明法堂

編輯人 東京市京橋區南組屋町二十七番地 松田久次郎

印刷人 東京市牛込區矢來町三番地 小宮山信好



三十五年度第三學年第二十號附錄  
明治三十五年八月二十九日印刷同年同月三十日發行

法學士 秋山雅之介先生著

本校々友生徒校外生諸君ニ限リ  
特別ノ割引ス

# 國際公法

全二冊  
平時之部  
戰時之部  
(近刊)

●用紙 菊版 上質 ●正價金壹圓八拾五錢郵税金拾四錢  
紙數 六百九十餘頁 ●本製ペン金二十五錢増シ

列國外交ノ視點東洋ニ集注シ來タル今日國民一般ニ國際公法ノ知識ヲ必要トスルハ曠々ヲ須非ス然ルニ斯法ノ著述ニシテ和洋ニ行ハルルモノ汗牛充棟管ナラスト雖モ其序述ノ井然トシテ教科書及參考書ニ適スルモノ最モ少ク著者ニヨリ其所說ニ偏執アリ其說明ニ精粗アリ法學者ヲシテ現今如何ナル法則カ如何ナル程度ニ於テ列國ヲ拘束スルヤヲ知得スルニ苦マシムルモノ比比皆是ナリ本校講師秋山法學士之ヲ斯學界ノ缺點トシ又曩ニ同學士カ府下諸大法律學校ニ於テ口述サレタル講義ハ其詳細ヲ悉ササルヲ遺憾トシ近頃本書ヲ著シ現行國際公法ノ法則ヲ秩序のニ說述シ悉ク之ヲ有力ナル實例ヲ以テ立證シ更ニ最新有力ノ學說ヲ引用シテ論定サレタルヲ以テ本書ハ斯學界ノ缺點ヲ補足シ操觚者ニ取リ教科書又ハ參考書トシテ有用ナルハ勿論刻下國民一般ノ需用ヲ充スニ足ルニ庶幾カフン乎

發行所

東京市麴町區富士見町六丁目  
(電話番町百四十七番)

東京市神田區裏神保町七番地  
(電話本局千四百三十六番)

和佛法律學校  
書肆明法堂

明治二十二年十二月九日內務省許可 明治三十四年十一月十四日第三種郵便物認可

其用ヲ爲ササルモノ之ヲ積集シテ機關車ヲ作リ又ハ鍛鍊シテ各刀ト爲スル等  
ハ其功用偉大ナルモノナリ而シテ此等之モノハ形ヲ變スルモノナリ然レモ必ス  
場所ヲ移轉スルモノト謂フ得ルモノ多シ然レモ此等之場所又ハ同時ニ場所ヲ  
轉スルモノナリ即チ鐵山ヨリ銅鐵礦ヲ探求スル之ヲ精製スルトキハ如キ  
是ナリ然レトモ此所ニハ説明上便宜ノ爲メ兩者ヲ區別シテ説カシ外界ノ  
部分カ場所ヲ替フルニ因リ財貨タルノ性質ヲ得又ハ其性質増加スルモノ  
ノ例ヲ舉ケレハ珊瑚珠又ハ眞珠カ海底ニ在ルモノナリハ船ヨリ之ヲ望視スレハ  
光輝燦爛トシテ美ハ即チ美ナリトモ幾千尋ノ海底ニ在ル儘モナハ何等ノ用  
ヲ爲スコトナシ時ニ或ハ好奇家アリテ海上ヲ航行スル都度望遠鏡ニテ之ヲ  
望視シ以テ其一種ノ欲望ヲ充タスコトナシトモ一般ノ人ハ此ノ如キ  
コトニテハ何等ノ欲望ヲ充タスコト能ハス即チ或例外ノ場合ニ於テハ海  
底ニ在ル儘ニテ欲望ヲ充タスコトアルモノ一般ニハ欲望ヲ充タスコトナシ  
ルニ之ヲ海中ヨリ引キ上ケルトキハ高貴ノ價ヲ有スルモノ而シテ珊瑚珠  
ハ或ハ人爲ニ依リテ形ヲ變スルモノアルモノ眞珠ニ至リテハ形ヲ變スルモノ

ナシ此等ノモノハ例外ノ場合ニハ天變地異ニ因リテ場所ヲ轉スルコトナシ  
トモサルモノ普通ノ場合ニハ人爲ニ依リテ引上ケラルモノナリ且此等ノ  
モノハ固ヨリ外界ノ一部分ニシテ而シテ無限アルモノナレハ均シク外界ノ一部  
タル空氣ノ如キ無限ノモノトハ大ニ異ナレリ以上ノ如キモノヲ指シテ經濟  
上ノ財貨ト謂フモノナリ  
左右シ若クハ利用スルコトヲ得ルモノタルヘカラス之ヲ換言スレバ通常  
一箇人ノ所有權ノ範圍内ニ屬スベキモノタルヘカラス(七) 經濟學上ノ財貨ハ勞働シ若クハ他ニ報酬ヲ與フルニ因リテ之ヲ占有ス  
ルコトヲ得且之ヲ自由ニ左右シ又ハ利用スルコトヲ得ルモノナレトモ間之  
ヲ利用シ使用スルコトヲ得ルモノ全ク自由ニ左右スルヲ得サルモノニシテ尙  
ホ且經濟上ノ財貨タルモノアリ例ヘバ土地ノ如キハ經濟上ノ財貨ナルモノ自  
由自在ニ形ヲ變シ即チ或ハ球形ノモノト爲シ或ハ方形ノモノト爲スルモノ  
出來サルナリ若シ球形又ハ方形ト爲ストキハ普通ノ土地タルヲ得ス然レト  
モ土地ノ如キモノト雖モ勞働若クハ他ニ報酬ヲ與フルモノ固リテ得タル上

之ヲ利用スルコトヲ得ルモノナリ但法律ヲ以テ利用ヲ制限スルトキハ格別ナリ而シテ又經濟上ノ財貨ハ一箇人ノ所有權ノ範圍内ニ屬スルモノナラザルニシテ或國ニ於テハ所有權ヲ認メザルモノニシテ尙ホ經濟上ノ財貨タルノ性質ヲ他ノ點ニ於テ備ヘ之ヲ經濟上ノ財貨ト名ズルノ外致方ナキモノアリ故ニ經濟上ノ財貨ハ一箇人ノ所有權ノ範圍内ニ屬スルモノタルヲ要スルハ普通ノ場合ニシテ是ニハ例外アルコトヲ知ラザルハカラス尙ホ此點ハ後ニ至リテ詳述セシムルモノナリ

經濟上ノ財貨ハ又人爲ニ依リテ始メテ其重ナル性質ヲ具有スルニ至ルモノナレハ常ニ勞力ニ據リテ起リ勞力ナケレハ之アルコトナシト謂フ可ナリ但同一ノ勞力ハ必スシモ同一ノ財貨又ハ利用ヲ生セス同一ノ財貨又ハ利用往異種ノ勞力ニ因リテ起ル故ニ經濟上ノ財貨ハ起源ハ種種様様ノ勞力ニ在リ先占ノ如キ容易ナル勞力ノミニ因リテ財貨ノ生スルコトモアレハ日夜刻苦シテ勞働セザレハ財貨ノ生セサルコトモアリ唯何レノ經濟上ノ財貨モ皆勞力ヲ要スルノ點ニ於テハ相一致スルモノナリ此理由ト有限ノ性質ヲ有スルトヨリシテ

(二) 前ニ述ヘタルカ如ク經濟上ノ財貨ハ其重ナル性質即チ人ノ欲望ヲ充タスノ性質ヲ人爲ニ依リテ得又ハ増加スルモノナリ故ニ勞力アリテ茲ニ始メテ經濟上ノ財貨ハ財貨トシテノ價ヲ十分ニ備ヘ得ルモノナルヲ以テ大體ヨリ言ヘハ經濟上ノ財貨ハ勞力ニ因リテ成ルコト云フヲ得ルナリ然レトモ同一ノ勞力ハ同一ノ經濟上ノ財貨ヲ生セス又同一ノ勞力ハ必スシモ同一ノ利用ヲ生セス例ヘバ人力車夫カ客ヲ乗セテ同一ノ道程ヲ行クモ十錢ノ賃金ヲ得ルコトアリ又二十錢ノ賃金ヲ得ルコトアリ車夫ノ得タル賃金ハ二ツノ場合ニ於テ等シク財貨タルノ點ニ於テハ同一ナルモ其得タル金額ノ多少即チ十錢ト二十錢トハ大ニ其利用ヲ異ニスルモノナリ此ノ如ク同一ノ勞力ヲ施スモ同一ノ結果ヲ生セザルハ乘客ノ貧富及ヒ其他種種ノ事情ニ由ルモノニシテ若シ車夫カ勞力ヲ施スニ當リ常ニ總テノ事情同シカリセハ同一ノ結果ヲ生スルコトヲ得ヘキモ此ノ如キハ殆ト稀有ノ事タリ人間界ニ於ケル原因結果ノ關係ハ物理界ニ於ケルモノトハ大ニ異ナレバ物理界ニ於テハ同一ノ原因アレハ必ス同一ノ結果ヲ生スルモ人間界ニ在リテハ同一ノ原因アルモ

之ニ伴フ周圍ノ事情時ニ由リ大ニ異ナルハ必スシモ同一ノ結果ヲ生セシメ而シテ又同一ノ利用同一ノ財貨モ異ナリタル勢力ニ因リテ生スルコトアリ例ヘハ均シク十錢ノ賃金ヲ得ルニモ新聞紙ノ配達ニ因リテ得ルコトアリ人力車ヲ挽キテ得ルコトアリ是レ恰モ物理界ニ在リテ點ナルモノカ必スシモ同一ノ原因ニ由リテ生セス或ハ摩擦ニ因リ或ハ單純ナル運動ニ因リテ生スルコトアルカ如シ而シテ財貨ヲ得ルニ最モ容易ナル勢力ハ先占ニシテ大ナル勞働ヲ爲シ汗水ヲ流シテ始メテ財貨ヲ得ルニ比スレハ大ナル差異アリ此ノ如ク財貨ノ成立スルニハ其種類ニ由リ種種ノ事情ニ由リテ勢力ノ難易ニ非常ノ差異アルモ勢力ヲ要スルノ點ニ至リテハ皆相一致セリ

經濟上ノ財貨ハ不法ニ之ヲ獲得スル場合ノ外常ニ自ラ勞働スルカ或ハ他ニ報酬ヲ與フルカ然ラサレハ他人ヨリ無代價ニテ讓與サルルニ非サレハ決シテ之ヲ得ヘカラサルナリ

經濟學上ノ財貨ニ三種ノ別アリ即チ(イ)貨物(ロ)人的財貨(ハ)有利關係ノ三者是ナリ

(イ)貨物トハ一ニ之ヲ有形ノ經濟的財貨又ハ有形ノ經濟上ノ財貨ト稱シ吾人ハ

類ヲ圍繞スル外界ノ區畫サレタル一部分ノ重ナルモノニシテ常態トシテ財貨タルノ性質ヲ有スルモノナリ是レ財貨ノ最モ普通ナルモノニシテ經濟學上最モ多ク用ヒラレ或意味ニ於テハ最モ重キヲ置カサルヘカラサルモノナリ通常ノ商品珍奇ノ美術品食品製造品等ノ如キ皆是ナリ

(ロ)人的財貨トハ美術品タル所以ハ商品ノ如ク有形ナル物件其モノニ非スシテ高尚ナル理想ニ存スルモノナレトモ有形ノ物件ト離ルヘカラサルカ故ニ是レ亦貨物ナリ此等ノモノハ其通常ノ有様ニテ貨物タルモノニシテ有利關係係ノ如キ一時財貨タル性質ヲ有スルモノトハ同シカラス即チ此等ノ物カ貨物タル性質ヲ失フトキハ其モノノ消滅スルトキニ限ルモノナリ此貨物ハ經濟學上最モ多ク遭遇スル所ノモノナリ然レトモ財貨ハ有形ノモノノミニ限ラス人ノ理想智識ノ如キ無形ノモノモ財貨ナリ無形ノ財貨中人間ノ最モ尊フヘキモノヨリ觀レハ金錢米穀ノ如キ富貴吾ニ於テ何カアラント謂フコトヲ得ルモ或意味ニ於テハ貨物ハ經濟上最モ重キヲ置カサルヘカラス

(ハ)人的財貨トハ人其體及ヒ之ニ直接ノ關係有スル財貨ナリ之ヲ説明スル

ニハ便利ヲ爲メ更ニ細別シテ(1)ト(2)トノ二ヲ爲シ(3)ニ於テハ人其モノヲコト  
(3)ニ於テハ人ヲ勤勞ヲ論述スルコトト最モ重要ナルモノナリト云フ

(10) 人の財貨ハ一ニ之ヲ屬人的財貨トモ謂フ然レトモ屬人的財貨ト云ヘ  
ハ人ニ屬スル財貨ノモテ意味スルコトト爲ルナリ而シテ人的財貨ハ人ニ屬  
スル財貨ノミナラズ人其モノヲモ包含スルモノナリト云フ  
(11) 人其モノハ人其モノトハ生理上並ニ心理上ニ於テハ他人ノ人類ト異ナル  
所ナケレトモ社會上經濟上並ニ法律上ニ於テハ貨物ト同様ノ取扱ヲ受ケ實際  
貨物ト同様ノ性質ヲ帶フルモノナリト云フ(12) 而シテ其之ヲ帶スルノ程度如何  
(13) 人ニハ人格ヲ備ヘタル者ト然ラサル者トノ二者アリ義ニ外界ノ財  
貨ノ定義ヲ與シタルニ當リ苟モ人間以外ニ在リテ人間ヲ探リテ以テ其欲望  
ヲ充タスニ適當ナルモノヲ謂フト述ヘ其所謂人間トハ人格ヲ備ヘタル者  
ナルコトヲ要スト云ベリ而シテ此處ニ所謂人其モノトハ即チ人格ヲ備ヘ  
タル人夫レ自身ヲ指スモノナリ生理上並ニ心理上ヨリ言ヘバ此種ノ人其  
モノ雖モ固ヨリ渴シテハ水ヲ欲シ飢ニテハ食ヲ求メ寒ケレバ衣ヲ欲シ又喜

哀樂ノ感情ヲ具フル等總テ他人ノ人類ト同ナレトモ是レ唯生理上又ハ心  
理上ヨリ觀察シタルニ過キス法律上ニ於テハ普通ノ人類ハ人格ヲ備フル  
モノトシテ認メラレ權利義務ノ主體タレトモ貨物ノ性質ヲ有スル人其  
モノハ人格ヲ認メラレス又社會上ニ於テモ經濟上ニ於テモ二者ハ之ヲ同  
視スヘカラス故ニ人格ヲ備ヘタル人ハ有形ノ商品食用品製造品等ト同  
ノ取扱ヲ受ケ亦實際同一ノ性質ヲ有スルモノナリ此ノ如キ人其モノニ  
實際貨物ト同一ノ性質タルモノ昔日ニ在リテハ深山存在シタル世  
間明ニ趨クニ隨ヒ漸漸其數ヲ減スルニ至レリ此ノ如キモノハ今日ニ於テ  
全ク之ナシトセサレトモ公然認メラルルニ非スシテ單ニ所謂公然ノ秘密  
トシテ存在スルニ過キス耳ト云フ(14) 實則人其モノハ貨物ト異ナル  
(15) 總テ時ニ法律制度ニ據リテ定メラルモノト云フ(16) 故ニ奴隸ノ公認サルタル  
(17) 人間ニシテ貨物ノ取扱ヲ受ケ實際貨物ノ性質ヲ具フルニ至ルハ時  
ノ法律制度ニ依ル即チ貨物ノ人類ハ法律ノ之ヲ認ムルニ因リテ存在スル  
モノナリ隨テ貨物ト性質ヲ帶フ程度ノ如何モ亦時ニ法律ニ依リテ定

ルモノナリ而シテ法律上ニ於テハ認メラレサルモ實際上ニ於テ貨物ノ人類ノ存スルニシテハシテモ此等ノモノハ此處ニ之ヲ論スルハ必要ナシ

(三) 人間ニシテハ貨物トシテ認メラレサルモ實際上ニ於テハ貨物トシテ認メラレサルモノハ此處ニ之ヲ論スルハ必要ナシ

古代並ニ中世ノ諸國ニ於テハ彼等ノ生理上並ニ心理上ニ於テハ體ニ他ノ人類ト異ナルコトナカリシト雖モ單ニ普通ノ貨物トシテ賣買譲與シタルモ過キス又奴隸トマテニハ至ラサルモ之ニ類似スル所謂半奴隸ノ存在スルモ當リテハ是レ亦人類ニシテ人類ニ非ス貨物ト稱スルモ可ナルモノナリ

(四) 人類ニシテ貨物ノ性質ヲ帶フル者ハ奴隸ナリ奴隸ハ法律上權利ノ主格タルヲ得ス單ニ權利ノ目的物タル者ナリ故ニ奴隸ノ持主ハ之ヲ生殺與奪ノ權利ヲ有シ奴隸ヲ殺スモ罰セラルコトナシ隨テ奴隸一箇ニ付キ若干ト云フ價ヲ定メテ之ヲ賣買スルニ至ル此ノ如ク奴隸ハ生命アルノ點ヨリ觀レハ普通ノ人類ト同一ナルモ單ニ權利ノ目的物タルヲ得ル者ナルヲ以テ牛馬鷄豚ト同シク貨物ノ性質ヲ有スル者ナリト然レトモ等シク生テ人間ニ享ゲタル者ヲ奴隸ト爲シ之ヲ貨物ト同一視スルハ苛酷ノ極ナ

ルヲ以テ中世以後諸國大抵皆奴隸ノ制度ヲ認メタルコトト爲レリ而シテ又半奴隸ナル者アリテ法律上ノ取扱奴隸ニ於ケルカ如ク苛酷ナラサルモ普通ノ人間ト取扱ヲ異ニセラレ人格ヲ認メラレサル者アリタリ此半奴隸ハ奴隸ニ比シ法律上ノ取扱ニ多少寬嚴ノ差アルモノ二者共ニ人格ヲ有セサル者ナレハ貨物タル性質ニ於テハ同一ナリ

此ノ如ク半奴隸ト稱スヘキ者ハ眞箇ノ奴隸ノ既ニ廢セラレタル後ト雖モ多クノ國ニ於テ尙ホ存在セリ其一種タル露國ノ農僕莊僕ノ如キニ至リテハ近年マテモ之アリタルモノナリ

(四) 人間ヲ奴隸トシテ取扱フコトハ苛酷ノ最モ甚シキモノナルカ故ニ人類ノ同胞ニ對スル感覺發達スルニ隨ヒ眞ノ奴隸ハ廢セラレタルモ尙ホ半奴隸ナル者存在シタリ農僕ノ如キハ其一種ニシテ土地ニ附著シ土地ト共ニ賣買譲與シタリ當時農業ニ在リテハ勞働ヲ要スルコト最モ多ク通常ノ勞働ニテハ十分農作ヲ爲シ能ハサルヲ以テ奴隸ニ均シキ勞働者タル農僕ヲ以テ土地ノ附著物ト爲シタルモノナリ此農僕ハ其附著スル土地ト

其ニ賣買讓與サレタルモノニシテ極近來マテ存在セリ特ニ露西亞ノ如キハ農業ヲ主トスル大國ナルヲ以テ土地ヲ耕スニ非常ニ多クノ農僕ヲ用ヒ土地ト共ニ之ヲ賣買讓與セリ其之ヲ廢止シタルハ今ヲ距ルコト漸ク四十年前ナリ即チ千八百六十一年二月十九日ノ露帝ノ詔勅ニ依リ千八百六十年三月十七日ヲ期シ農僕ヲ開放シテ自由ノ民ト爲モリ其開放サレタル當時ニ於ケル露國ノ農僕ハ男女老若合セテ二千六百六十二萬五千六百九人ノ多キヲ占メタリ以テ露國ニ於ケル貧富懸隔ノ一端ヲ見ルニ足ルヘシ而シテ奴隸ノ存在シタルハ獨リ露國ノミニ非スシテ英佛獨等亦然リ唯此等諸國ハ此制度ヲ廢止スルコト露國ヨリ早カリシニミ又米國ニ於ケル南北戰爭ハ奴隸ヲ廢止スヘキヤ否ヤニ付キ議論ノ沸騰シタルニ基因スルモノニシテ民權自由ヲ重スル米國人ト雖モ尙ホ且黑人ニ對シテ當時人權ヲ認メナリシナリ而シテ此戰爭ハ前世紀ノ六十年代ノ出來事ナリ現今ニテモ南亞米利加並ニ亞弗利加邊ニテハ秘密ニ奴隸ヲ賣買ス而シテ我國ニテモ古昔ハ奴隸ノ賣買アリタルモノニシテ之ニ關スル法令ノ規定モアルナリ

又今日ニテモ人身賣買實際ニ行ハル唯公ニ認メラレサルヲミ然レトモ此ノ如ク公ニ認メラレサルモノハ此處ニ論スルノ必要ナシ以上述フル所ニ依レハ人類發達ノ變遷ハ大體ニ於テ各國皆其軌ヲ同シウスルモノナリ尙ホ此點ニ關スル詳細ハ後日ニ至リ之ヲ述ヘシメ置ク

其レ然リ然リト雖モ違タ例ヲ海外諸國ニ求ムルニ及ハス之ヲ本邦ノ歴史ニ徵スルニ本邦ノ古代ニ於テ氏氏ナルモノアリ之ニ伴部若タハ部曲ナルモノ附屬シ居リ舊幕時代ニ於ケル譜代ノ臣下ト同様ニ人身ノ自由ナカリシモノナリ其名稱ハ時代ニ依リテ大ニ異ナレトモ其實ハ大體ニ於テ皆同シ日本紀中安閑紀ニ部曲ヲ氏奴ト記ス是レ既ニ人身ノ自由ナキ者ナリ然ルニ此氏奴ヨリモ尙ホ下ニ位シ之ニ屬スル奴婢賤民隨身ナトト稱スル者スラアリテ此等ヲ賣買讓與シタル實例乏シカラサルノミナラス之ニ關スル法規マテモ多少備リ居リタルカ如シ現ニ親ノ爲メニ賣ラレタル子ハ賤民ト爲ルヘキ而シテナレトモ兄ノ爲メニ賣ラレタル弟ハ賤民ノ階級マテニハ下ラスト云フカ如キ規定存在セリ(註)



(二五) 往時ニ在リテハ何レノ國ノ人民モ皆倫理思想充分ニ發達セザリレヲ以テ奴隸及ヒ半奴隸ノ制度殆ト何レノ國ニモ存在セリ之カ適例ハ之ヲ海外諸國ニ求ムルマデモナク我國ノ歴史ニ微照シテ明カナリ即チ我國ノ古代ニ氏氏ナルモノアリタ之ニ附屬スル伴部若クハ部曲ナルモノアリシカ其身體ヲ全然拘束セラレルコト恰モ舊幕時代ニ於ケル譜代ノ臣下ト同様ナリシ又日本紀ノ安閑紀ニハ部曲ヲ氏奴ト記シ氏奴ノ下ニ奴婢賤民隨身等ノ者之アリ此等ハ總テ人身ノ自由ナキモノナリシ特ニ奴婢賤民隨身等ハ氏奴ヨリ一層賤クシテ之ヲ賣買讓與シタル實例乏シカラス且之ニ關スル法規モアリタリ現ニ親ノ爲メニ賣ラレタル子ハ賤民ト爲ルモ兄ノ爲メニ賣ラレタル弟ハ賤民ト爲ラストノ規定存セリ兩者ノ間ニ此區別アル所以ハ蓋シ兄ノ弟ニ對スル權力ハ親ノ子ニ對スル權力ニ及ハサルノ理由ニ基クモノナラン此ノ如キ制度全ク廢止サレタル今日ニ於テモ賤シキ者ヲ賤民ト稱シ自己ヲ卑下スルトキニ隨身ノ語ヲ用フルコトアルハ此等ノ古代ニ於ケル制度ニ職由スルモノナラン是ニ由リテ之ヲ觀レハ本邦ニモ

奴隸ニ類シタル者アリ之ニ關スル法規マデモ多少備ハリ居リシ時代アリタルコトハ他ノ諸國ト其軌ヲ同シタスト謂フヘシ然レトモ此等ノ事ヲ詳細ニ研究スルハ法制史、經濟史或ハ社會學等ノ範圍ニ屬シ經濟學ニ於テハ深ク之ヲ研究スルノ暇ナキヲ以テ此處ニハ唯財富ノ中ニ斯ル種類アルコト及ヒ我國ニモ此等ノ者ノ存在シタリシコトヲ述フルニ止メン

(ろ) 勤勞 勤勞トハ人類カ一時外界ノ物體ニ及ボス影響ニシテ其繼續シタツアル間財富タルモノナリ之ヲ換言スレハ人人ノ活動カ其繼續スル間財富タルノ性質ヲ有スルナリ例ヘハ雇人ノ勤勞ノ如キモノ即チ是ナリ(二六) 此ノ勤勞トハ人人ノ活動ニシテ之ニ依リ一時外界ノ物體ニ影響ヲ及ボシ其影響ノ繼續スル間財富タルモノナリ但此處ニ所謂影響ノ繼續トハ實際ニ於テ毫モ間斷ナキヲ要スルニ非ス例ヘハ下女、下男ノ如キハ或一定ノ期間報酬ヲ定メテ雇主ノ爲メニ勞役ニ服スルモ其勞役ハ晝夜通シテ間斷ナキヲ得ルモノニ非ス即チ夜間ハ睡眠シ晝間ト雖モ休憩スルコトアルモ其定マリタル雇傭期間ハ勤勞ノ繼續スルモノト看做ササルヘカラス而シテ

雇主ハ雇傭契約ノ範圍内ニ於テ其勤勞ヲ自由ニ左右シ賣買譲與スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ勤勞モ亦財貨ナリ此處ニ注意スヘキハ他ニ非ス雇主ハ婢僕ノ供スル勤勞ヲ賣買譲與スルヲ得ルモ婢僕其人ヲ賣買譲與スルヲ得サルコト即チ是ナリ是レ婢僕ノ奴隸ト異ナル所ナリ

如キ勤勞ハ捕提スヘカラサルヲ以テ之ヲ全ク占有スルヲ得ス故ニ此種ノ財貨(イ)ノ財貨即チ貨物ノ如ク完全ナル所有權ノ範圍内ニ屬スルヲ得ス之ニ對スル所有權ハ法令上或ハ認メラレ或ハ認メラレス何レニシテモ極メテ不完全ナルモノタルヲ免レス

(二七) 勤勞ノ結果ハ多ク有形ナルトモ勤勞其レ自身ハ無形ニシテ之ヲ捕提スルヲ得ス故ニ如何ニ嚴酷ナル雇主ニテモ雇人ヲシテ終日間斷ナク勤勞ニ服セシムルヲ得サルモノナリ即チ雇人ト雖モ終日ノ勤勞ニ疲レテ倦ムニ至ルコトアルヘレ此場合ニ於テ之ヲ使役セシカ爲メ鞭撻ヲ加ヘンカ是レ既ニ違法ノ事ニシテ雇主タル者ノ爲メヘカラサルコトタリ況ヤ鞭撻ヲ加スルモ仍モ勤勞ニ服セサルニ於テハ又奈何トモスヘカラサルニ於テ

人カ勞力ヲ始メタル時ニ當リテハ普通ノ勞力者ハ外部ノ強制又ハ飢餓ノ壓迫ノ爲メニ之ニ從事シタルモノモシテ軍人僧侶ノ如キハ春採品ヲ獲若クハ名譽權力等ヲ得ンカ爲メニ勤ヤタルモノナリ然ルニ今日ノ勞力者ハ自己ノ利益目的ノ外技術上ノ成功ヲ望ミ又ハ社會公衆ヲ利セント欲スルノ念及ヒ其他種種ノ動念ヲ以テ勤勞スルナリ

勞力ハ其度ヲ失シ若クハ一方ニ偏スルトキハ人ノ生存發達ヲ害スルノ恐アリト雖モ怠惰優逸ニ比スレハ其弊甚タ少シ勞力ハ計畫アル活動ナリ將來ノ收益ノ爲メニ現在ニ於テ營マルル規則正シキ勞力ナリ之ヲ以テ勞力ハ變化極リナキ一時ノ出來心ト情慾トヲ支配スルコトニ依リテ始メテ行フコトヲ得ヘク怠惰放心ヲ克服スルコトニ依リテ始メテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ勞力ハ實ニ人類德育ノ根源ナリト謂フヘシ又生理學ハ教示スル所ニ依レバ人カ勞力ヲ爲サシカ爲メニ身體ノ一部ヲ勞スルトキハ其部分ハ組織ニ發育ヲ催シ之ヲ使用スルモ容易ニ疲勞ヲ來サス運動ヲ自在ナラシム必要ハ際ニハ劇烈ニシテ且敏捷ナル勤勞ヲ爲シ得ルニ至ラシムルモノナリト勞力ヲ爲ス人特ニ數代引續キ

勞力ヲ爲ス人ノ身心好ク發育シ之ヲ爲ササル者ニ比スルハ概シテ敏捷ナルヲ沈著且銳利ナリト云來人ハ勞働ヲ爲スニ依リテ觀察傾軋整頓克己ヲ學ビ時間ノ節用ヲヘキニ當テハ計トヲ覺ルモノナリ人ハ勞力ヲ爲スニ依リテ能力ヲ得能力ヲ具スルニ依リテ勞働ヲ嫌ハス好ミテ勞力ヲ爲スニ依リテ幸福ヲ受ケルモノナリ箇人家族階級國民ニシテ勞力ヲ學ビ好ミテ之ニ從事スル者ハ繁ヘ之ヲ忌避スル者ハ衰ヲ爲ス

第二、勞力ニ分類スルモノハ五ニ分ケテ之ヲ區別スルモノナリ

(第一) 主トシテ精神ヲ活動セシムルカ又ハ肉體ヲ勞スルカニ基キ勞力ヲ分類セテ左ノ二トス

(一) 精神の勞力 例ヘハ學者技師ノ勞力ノ如シ

(二) 肉體の勞力 例ヘハ車力土力ノ勞力ノ如シ

(第三) 豫メ一定ノ修練ヲ要スルト否トニ因リ又左ノ如ク區別ス

(一) 修練の勞力 例ヘハ美術品ノ製作學者ノ勞力ノ如シ

(二) 非修練の勞力 例ヘハ荷擔夫左官ノ手傳ノ勞力ノ如シ

(第三) 勞力ニ次ク直接ノ結果ニ因リテ之ヲ分類スルトキハ

- (一) 發明及ヒ發見ノ勞力 例ヘハ發明家
  - (二) 自然ノ產物ノ採收 例ヘハ狩獵漁獵採礦等ノ勞力ノ如シ
  - (三) 動植物ノ生活力ヲ利用シテ粗生品ヲ生産スル勞力 例ヘハ農夫牧童ノ勞力ノ如シ
  - (四) 製造ノ勞力 粗生品ニ加工シテ有用ナル工藝品ヲ作出スル各種ノ工業者ノ勞力ノ如シ
  - (五) 貨物ノ運搬 例ヘハ船主車夫馬夫等ノ勞力ノ如シ
  - (六) 貨物ノ交換 例ヘハ各種ノ商人ノ勞力ノ如シ
  - (七) 貨物ノ消滅ノ防禦 例ヘハ消防夫燈臺ノ番人等ノ勞力ノ如シ
- 第三、勞力ノ分量 人ハ重長短ヲ計ルニ「グラム」「メートル」アルカ如ク勞力ノ分量ニ關シテモ或一定ノ標準ヲ定メテ之ヲ測定セント欲スルノ傾向ヲ有スルモノナリ而シテ勞力ハ生産上ニ效果ヲ顯スト同時ニ之ヲ爲ス人ニ對シテ多少苦痛ヲ感セシム

ルモノナリ随テ世人カ勞力ノ分量ヲ測定スルノ標準トシテ採用セシト欲スルモノニアリ

(一) 勞力ノ生産上ニ及ホス效力即チ勞力ノ生産力或ハ依據ニ關セテ問題

(二) 勞力ヲ爲ス人ノ感スル苦痛ノ分量

是ナリ然ルニ吾人カ生産ヲ爲スニ當リテ爲ス所ノ勞力ハ其種類、品等相同シカラサルモノ甚タ多ク隨テ之ニ伴フ苦痛ノ感覺モ亦種種ナルカ故ニ「グラム」ト「リトル」如キ簡單ナル標準ヲ以テ計算スル能ハサルナリ或學者ハ修練ヲ要セサル勞力ヲ基礎トシ他種ノ勞力ノ生産力ハ其何倍ニ當ルカラ計ラントシ勞力ニ伴フ苦痛ノ感覺ハ勞力者ノ生活力消耗ノ量ニ據リテ算定セシト試ミタルモ何レモ失敗シタリ現今ニ於テモ唯此等分量ノ大小輕重ヲ來ス原因ヲ列舉スルヲ以テ滿定セサルヲ得サルナリ

(甲) 勞力ノ生産力

勞力ノ生産力ハ下ノ三箇ノ原因ニ由リテ増減ス

(一) 勞働能力ノ多少

二 勞働心ノ強弱

三 勞力ノ協同

(一) 勞働能力ノ多少

勞働能力トハ人ノ勞働ニ堪ヘ得ル能力ヲ謂フ而シテ此能力ハ(1)體力ノ強弱(2)智力ノ多少、道德ノ高低ニ因リテ定マル體力ノ強弱ハ遺傳及ヒ發生後ノ衛生ノ如何ニ依リテ定マルモノナリ隨テ人種及ヒ日常取ル所ノ食物ノ如何ハ大ニ體力ノ大小ニ關係アルモノナリ例ヘハ英國ノ勞働者ハ他國ノ勞働者ニ比シテ一般ニ體力ノ強大ナルハ一ハ其遺傳ノ然ラシムル所ナリト雖モ一ハ彼等ノ取ル所ノ食物カ概シテ他國ノ勞働者ノモノニ比シテ佳良ナルニ由ルモノナリト云フ該ニ「低廉ナル勞力ハ高價ナル勞力ナリ」(cheap labour is dear labour)ト云ハ薄給ノ勞働者ハ十分ナル食物ヲ取ルコト能ハス體力微弱ナルカ故ニ勞力ノ效果ト賃銀ノ額トノ割合ヨリ考フルトキハ厚給ニシテ豊カナル生活ヲ營ム強壯ナル勞働者ヨリモ却テ不廉ナルモノナリトノ意ナリ故ニ引續キ同一ノ勞働者ヲ雇傭スル場合ニ於テハ單ニ雇主ノ私益ヨリ考フルモ餘リニ少キ賃銀ヲ給シ之

ヲシテ體力ヲ維持スルニ必要ナル食物ヲモ得ルコト能ハナラシムルヨリハ相當ノ給金ヲ與ヘ十分ニ體力ヲ養ヒ安シテ勞働ニ就カシムルヲ可トスルハ勿論ナリト雖モ一旦賃銀トシテ勞働者ニ給スルトキハ其使用ノ方法ハ固ヨリ勞働者ノ自由ナルヲ以テ厚給ヲ與フルコトニ因リテ雇主ノ得ル所ノ利益ハ家畜ノ持主カ家畜ニ佳良ナル食物ヲ十分ニ投與スルコトニ因リテ得ル利益ノ如ク確實ナルモノニ非サルナリ次ニ智力ノ多少ハ天稟及ヒ教育ノ如何ニ依リテ定マルモノナリ高等ナル勞力ノ主要ナル要素カ智力ナルコトハ何人モ許ス所ナレトモ下等勞働者ニ對スル智力ノ必要モ亦機械使用ノ普及スルニ隨ヒ益々増加スルモノナリ又道德ノ高低ハ教育及ヒ社會ノ制裁ノ如何ニ依リテ定マルモノナリ而シテ或種ノ勞力ハ道義心高キ者ニ非サレハ爲シ難ハナルモノナリ又普通ノ力役者ト雖モ德義心強キ者ナレハ當ニ其勞力ノ直接ノ效果大ナルノミナラス之ヲ監督スル勞力ヲ節約スルコトヲ得ルノ利益アリ

## (二) 勞働心ノ強弱

勞働心トハ吾人ヲ衝動シテ勞力ニ從事セシムル念慮ヲ謂フ而シテ此念慮ノ強

弱如何ハ勞力ノ生産力ニ大關係アルモノナリ故ニ勞働心ノ強弱ヲ論ズルハ勞働心ノ盛ナル所ト否トハ(1)吾人ノ有スル欲望ノ多少ト其強弱(2)勞力ニ因リテ得ル所得ノ多少ト其確否ニ因リテ定マルモノナリ蓋シ吾人ノ有スル欲望ノ多少ト其強弱トハ貨物既得ノ分量及ヒ其種類ニ關スルコト大ナリト雖モ文明ノ程度及ヒ人種ノ如何ニ依リテモ亦大差ヲ生スルモノナリ支那人ノ如ク非常ニ富ヲ欲スル情ノ盛ナル者ハ南洋ノ土人ノ如ク欲望ノ渺キ者ニ比スレハ勞働心強盛ナリ又勞力ニ因リテ得ル所得ノ多少ト確否ノ如何トニ依リテ勞働心ノ強弱ヲ來ス實例ハ奴隸カ自由ノ勞働者ニ比シテ勞働心極メテ微弱ナルト自由勞働者ノ中仕事高賃銀又ハ利益ヲ分配ヲ受クル勞働者カ時間拂賃銀ヲ受クルモノニ比シテ勞働心概シテ強盛ナルコトニ據リテ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ蓋シ自由勞力ノ協同トハ生産上人人カ一部分ニ其勞力ヲ適用シ互ニ相倚リ相助ケテ其同生活ヲ營ム社會上ノ組織ヲ謂フ而シテ此組織整備スルトキハ大ニ勞力ノ生産力ヲ大ナラシムルモノナリ

勞力ノ協同ハ之ヲ分チテ單純ナルモノト複雜ナルモノトノ二種トス  
(1) 單純勞力ノ協同 單純勞力ノ協同トハ一名合業ト稱シ多數ノ人カ聯合シテ同時ニ成一事業ニ從事シ各人ノ分擔スル仕事ノ種類同一ナル場合ヲ謂フ此種ノ勞力ノ協同ハ各人孤立シテ爲ストキハ豫メ複雑ナル裝置ヲ要シ又ハ多クノ時間ヲ要スル等ノ點ヨリシテ縱令技術上之ヲ實行シ得ヘシトスルモ經濟上殆ト爲シ能ハサル事ニ屬スル仕事ヲ極メテ簡便ニ仕遂クルコトヲ得セシムルヲ利益アリ而シテ此方法ハ漁業土木建築ノ際重大ナル物品ヲ處置スルカ爲メニ屢實行セラルルモノナリ  
(2) 複雜勞力ノ協同 複雜勞力ノ協同トハ一名分業ト稱シ一群ノ人カ種種ノ貨物ヲ作出スルニ當リテ各人其爲ス所ヲ異ニシテ相倚リ相助ケテ生産ノ目的ヲ達スル場合ヲ謂フ例ヘハ農夫ハ穀物ヲ作り大工ハ家ヲ建テ機屋ハ布ヲ織出ス等各人相倚リテ彼等ノ要スル貨物ヲ作出スルカ如キ或ハ葱煙草ヲ製造スルニ當リ或者ハ葉煙草ヲ摘ヘ或者ハ之ヲ刻ミ他ノ者ハ之ヲ卷シカ如ク其爲ス所ノ仕事ヲ異ニシテ一種ノ貨物ヲ作出スルカ如キヲ謂フナリ之ヲ勞力ノ協同ト

謂ヒ又ハ分業ト稱スルハ之ニ從事スル一群ノ人類全體ヨリ觀レバ一層都合ヨク生産ノ目的ヲ達スルカ爲メニスル協力ノ方法ニ外ナラサレトモ各人其爲ス所ヲ異ニスル點ヨリ觀レバ分業ト稱スルモ亦不可ナケレバナリ分業ノ利益トシテ古來學者ノ列舉スルモノハ左ノ如シ

(一) 勞力者ノ熟練ヲ増ス 分業ノ組織ニ由リ人人或一種ノ仕事ニ從事スルトキハ其事ニ關スル經驗ヲ重テ益熟練ヲ増スモノナリ

(二) 勞力者ノ修練ノ期間ヲ短縮ス 分業組織行ハルトキハ各勞働者ノ習得ヲ要スル仕事ノ範圍大ニ縮少スルカ故ニ修練ノ期間短シテ其職業ニ堪能ナル勞働者ト爲ルコトヲ得ヘシ

(三) 各人ヲシテ其能ヲ盡テシム 困難ナル仕事ハ強壯熟練ナル勞力者之ニ當リ容易ナル業務ハ婦女老幼ヲシテ擔任セシムルコトヲ得ヘシ今世紀ニ至リタハ紡績綿布等ノ自動機械ヲ使用スル工業ニ從事シタル十八歳以上ノ男工ハ其位置ヲ女工ニ譲リ鑛山鑛造所運搬業ニ轉シタル者甚多シ

(四) 時間ノ空費ヲ免ル 勞力者カ屢其從事スル仕事ヲ轉換スル下キハ其度毎

ニ使用スル道具器械ヲ換ヘ他ノ仕事場ニ移リ若クハ新仕事ニ著手スル前ニ當リテ免ルルコト能ハサル多少ノ躊躇ト新ナル仕事ニ著手シタルトキニ感スル仕事ノ難澁トニ因リテ時間ヲ空費セシムルモノナリ

(五) 資本ノ利用ノ増加 一人ニテ數多ノ仕事ヲ實行スルノ必要アルトキハ各種ノ道具ヲ備ヘ置キ或一種ノ仕事ヲ實行スル間ハ多數ノ道具ハ全ク使用セシテ放置セラレル場合多カルヘシ然ルニ各人特種ノ仕事ニ従事スル場合ニハ其弊ヲ免ルルコトヲ得ルノミナラス職業習熟ノ期間短キカ故ニ業務ノ不熟練ヨリ生スル原料ノ浪費ヲ少クスルコトヲ得ルカ故ニ大ニ資本ノ利用ヲ増加スルモノナリ

(六) 發明、改良ヲ促ス 分業ハ人ヲシテ一事物ニ専心ナラシムル結果トシテ各種ノ發明、改良ヲ催進スルモノナリ

新ナル發明顯著ナル改良ハ實務ニ従事セス緻密ナル觀察ヲ爲シ深遠ナル道理ヲ究ムルヲ以テ其務ト爲ス所ノ學者ノ任スル所ナレトモ彼等ノ爲シタル大發明大改良ヲ實地ニ應用スルカ爲メニ要スル小發明小改良ハ之ヲ實際

家ノ手ニ埃ツ場合決シテ少カラス蒸氣機關ノ轉ヲ開閉スル自動裝置ハ此事ニ使用セラレタル小童ノ創意ニ係ルモノナルカ如キ最モ顯著ナル一例ナリ

(乙) 勞力ヲ爲ス人ノ感スル苦痛ノ分量 苦痛ノ程度ハ勞働ノ時間ニ依リテ勞力者ノ感スル苦痛ノ分量ハ主トシテ下ノ三原因ニ由リテ増減ス

一 勞働時間

二 勞働ノ強度

三 周圍ノ事情

(一) 勞働時間 勞働ノ時間ハ勞働ノ強度ニ依リテ増減スルモノナリ

勞働ニ伴フ苦痛ノ分量ヲ増減スル最大ナル要素ハ仕事ヲ實行スル時間及ヒ堪能ナル勞働者ト爲ルニ必要ナル修練期間ノ長短ナリ例ヘハ一箇月ノ勞働ハ一日ノ勞働ノ三十倍、一箇年ノ勞働ハ一箇月ノ勞働ノ十二倍ノ苦痛ヲ與フルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ精細ニ之ヲ吟味スルトキハ苦痛ノ感覺ハ單ニ時間ノ倍數ニ比例セス仕事ノ始期ニ當リテハ一定ノ時間經過後ニ比スレハ苦痛ヲ感スルノ度強ク其後若干ノ時間間ニ於テハ苦痛ノ程度一定不變ナリ然



ルニ勞働稍ヤ久シキニ涉リ體力精神カ一部消盡スルニ至ルトキハ苦痛ノ感覺ハ急劇ニ増進シ遂ニ之ニ堪ケルコト能ハサルニ至ルモノナリ故ニ一日十時間ノ勞働ニ従事スル者ノ第十時間目一時間ニ感スル苦痛ノ分量ハ第二時間目ノ一時間ニ感スルモノヨリ大ナリト謂フコトヲ得ヘシ又勞力者カ勞働ヲ爲スカ爲メニ感スル苦痛ノ分量ヲ精密ニ計量セント欲セハ實ニ或仕事ヲ實行スル時ニ感スル苦痛ノ分量ノミナラス其仕事ニ堪能ナル人ト爲ルニ必要ナル準備ヲ爲スニ當リテ感シタル苦痛ノ分量ヲモ算入スルヲ至當トス例ヘハ二十年ノ修練ヲ要スル技師ノ一時間ノ勞力ハ殆ト特別ノ修練ヲ要セナル土方人足ノ二時間ノ勞力ヨリモ當事者ノ感シタル苦痛ノ總量ハ大ナリト謂フコトヲ得ヘシ

## (二) 勞働ノ強度

仕事ノ種類ニ依リ頗ル輕易ナルモノアリ甚タ困難ナルモノアリ精神若クハ身體ノ全力ヲ之ニ集中スルコトヲ要スルモノアリ慰ミ半分ニ之ヲ實行シ得ルモノアリ又同一ノ仕事ニテモ通常二日ヲ要スルモノヲ一日間ニ爲ストキハ苦痛

ヲ感スルノ程度ハ二倍以上ニ増加スルモノナリ「アダムズミス」カ一時間ノ強烈ナル勞働ハ二時間ノ輕易ナル仕事ヨリモ勞働ノ量多シト曰ヒタルハ勞働ノ強度カ如何ニ勞力者ノ感スル苦痛ノ分量ヲ増減スルカヲ説明シテ餘アリト謂フヘシ

## (三) 周圍ノ事情

勞力者ノ感スル苦痛ノ分量ハ單ニ勞働其モノノ性質ニ依リテ定マルモノニ非ス勞働ニ際シ勞力者ヲ圍繞スル周圍ノ事情如何ニ依リテ大ナル差異ヲ生スルモノトス例ヘハ空氣ノ流通惡シキ場所ニ働キ兒輩卑劣ナル徒ヲ伴トシテ勞役ニ就ク場合ニ於テハ然ラサル事情ノ下ニ同一ノ仕事ヲ實行スルニ比ストキハ勞力者ノ感スル苦痛ノ分量ハ一層大ナリト謂フコトヲ得ヘシ

## 第三節 資本

### 第一 資本ノ意義

資本トハ生産ノ用ニ供セラル有形ノ生産物ヲ謂フ

經濟上資本ナル語ヲ以テ表示セラルル觀念ニ二アリ

(一) 狹義ノ資本

(Capital in the narrower sense)

社會經濟の資本又ハ生産の資本ト

モ謂フトハ社會經濟の收得ノ手段タル用ヲ爲ス生産物ヲ謂フ而シテ貨物ノ社會經濟の收得ノ方法ハ生産ニ限ルヲ以テ資本トハ生産ノ用ニ供セラルル生産物即チ生産ノ手續中ニ顯出スル中間ノ生産物ヲ謂フナリ

(二) 廣義ノ資本 (Capital in the wider sense)

私人經濟の資本又ハ收得資本トモ謂

乙トハ貨物收得ノ手段タル生産物ヲ謂フ此觀念中ニ含マルヘキモノハ狹義ノ資本ニ屬スル總貨物ノ外所有者自ラ使用セス他人ニ貸出シテ以テ貨物收得ノ手段ト爲ス所ノ消費貨物全體例ヘハ貸家、貸本貸金、企業者カ前貸シタル勞働者ノ生活維持ノ資料ノ如キモノ等ヲ包括ス生産ノ要素トシテ資本ト謂フトキハ狹義ノ資本ヲ指スナリ

第二 資本ナル觀念ノ歷史的發達

資本即チCapitalヲフ語ハ羅馬ノCaputナル語ニ起源ス其當時Caputハ貸金、元金、即チ利子ヲ生スル貨幣ノ一定量ヲ指示スル語ナリキ中世ノ語Capitale、Caput

ヲ出テタルモノニシテ其初ハ同一意義ニ用ヒラレタルモノナリシカ偶然ノ出来事ニ由リ其意義ニ變動ヲ來セリ希臘羅馬ノ學者及ヒ中世ノ神學者宗教家ハ「貸付セル金員ハ世界ニ子ヲ生マス」トノ格言ニ基キタ利子ヲ徵スルハ不當ノ利得ヲ收ムルモノニシテ決シテ許スヘキモノニ非スト主張セリ然ルニ利子ノ徵收ヲ許ササルトキハ資金ヲ貸付スル者ナク其不便渺カラサルカ故ニ當時ノ人士ハ百方利子ヲ是認スルノ根據ヲ發見スルニ力ヲ用ヒ其結果トシテ一ノ有力ナル辨駁說ヲ得タリ其說ニ曰ク借リタル貨幣ハ子ヲ生マサレトモ貨幣ヲ借リタル者ハ之ヲ返還スルマテノ間ニ其貨幣ヲ以テ子ヲ生ムヘキ貨物ヲ收得スルコトヲ得ルカ故ニ利子ヲ收ムルハ正當ナリ貨幣ノ使用ハ交換ノ一形式ニ過キス貸主ト借主トノ間ニ實際授受セラルルモノハ果實ヲ生スル貨物ナリ貨幣ハ單ニ一時其實物ヲ代表スルモノニ過キササルナリ貸借ノ貨物カ果實ヲ生スルモノナレハ其代表者タル貨幣ニ利子ヲ生スルハ至當ノ事ナリト此ノ如キ學說一般ニ行ハルルニ至リタル結果トシテ資本ナル觀念ハ當ニ代表者タル貨幣ノナラス代表セラルル貨物ヲモ包括スルコトト爲リ貯蓄セラレタル貨物全體ヲ

資本ナリト云フ第二ノ觀念ヲ生シタリ。コトイハ蓄積ナルモノヲ要スルモノヨリ餘分ノ貨物ヲ收得スル者ハ之ヲ蓄積スルコトヲ得ヘシ此蓄積シタル貨物ハ即チ資本ナリト謂フハ即チ是ナリ然ルニ「アダム・スミス」ハ直接ノ運命ニ據リ觀察シテ蓄積シタル貨物ヲ區別シテ「直接蓄積」ト「間接蓄積」トニ分テ之ニ區別スルヲ示ス。

(1) 直接ノ消費ニ供セラルルモノニシテ收入ノ源泉タラサルモノヲ「直接蓄積」トシ、(2) 持主ニ對シテ收入ノ源泉タルモノニシテ收入ノ源泉タラサルモノヲ「間接蓄積」トシ、トノ二ト爲シ後者ノミヲ以テ資本ト名クヘキモノナリト唱ヘタリ是ニ於テ收入ノ源泉タル貨物ヲ以テ資本ナリトスル第三ノ觀念ヲ生シタリ其後ニ經濟ニ關スル理論的研究益々盛ナルニ隨ヒ「ジャン・バプティスト・セー」「マツカロフク」「ジ・シスチニアードミル」等輩出シテ貨財生産ハ自然及ヒ勢力ノ外ニ一種ノ生産ノ方便ヲ要スルコトヲ明カニセリ而シテ其生産ノ第三ノ方便ハ過去ノ勞働ノ結果ノ蓄積セラレタルモノニシテ「アダム・スミス」所謂收入ノ源泉タル貨物即チ資本ト略ホ同一ノ範圍ニ屬スル貨物ノ一體ナルコトヲ明カニシ生産ノ第三ノ要素

○貨財ノ生産ニ關スル法律ノ規定ハ前記ノ如クシテ其結果ヲ生シ若クハ生セントシテ其程度ニ達シタルモノキハ其行爲ヲ罪トシテ其行爲者ニ刑罰ナル制裁ヲ加フルヲ目的トスルモノナリ然ルニ若シ或人カ刑法上一般ニ罰スル所ノ或目的ヲ達セシカ爲メニ或行爲ヲ爲シ而シテ其目的トシタル結果カ見ハレタルモ其結果カ或他ノ事情ノ爲メニ罪ト爲ラサル場合ニ於テハ其中間ノ行爲即チ手段カ單獨ニ罪ト爲ルコトアリヤ否ヤ或ハ其手段カ罪ト爲ル如キ場合ニ於テハ其目的タル所爲カ必ズ罪ト爲ルモノナルカニ付テハ頗ル疑ナキコト能ハス例ヘハ盜賊タル證書ヲ利用セシカ爲メニ之ヲ増減變換シ且他人ノ印影ヲ盜用シテ行使シタル場合ノ如キハ證書偽造行使私印盜用等ノ罪ヲ構成スヘキヤ否ヤノ問題ヲ惹起スヘク而シテ前例ノ場合ニ於テハ犯罪ヲ構成スルモノト論ナカレバ其後例ノ場合ニ付テハ少クトモ二説ヲ生ズヘシ(一)其之ニ因リテ金錢ヲ收得シタルハ

竊盜ノ結果ナルカ故ニ更ニ刑罰ヲ加フベキニ非ス其金銀ヲ收得シタルハ竊盜ノ直接ノ結果ニ非シテ印影ヲ盗用シ證書ヲ偽造行使シタル結果ニ外ナラス隨テ刑法第二百八條第二項同第三百九十條第二項ヲ適用スヘキモノナリト大審院ハ右ノ第一說ヲ採ラルモ如ク本年六月十三日言渡シタル私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ對スル理由ノ一部ニ於テ印影ヲ盗用シ證書ヲ偽造行使スルカ如キハ其之ヲ收得スル手段ニシテ竊盜行為ノ結果ト云フ可キモノニアラス而シテ目的タル行為ニシテ罪トナラストスルモ其之ヲ違スル手段ニシテ罪ヲ構成スルニ於テハ之ヲ處罰スヘキコト勿論ナリト説明セラレタリ明治三十五年(昭和十一年)刑部省(一)尤モ此理由ノモミ據リテハ證書ヲ竊取シタル者カ印影ヲ盗用シ又ハ其證書ヲ増減變換シテ之ヲ行使シ以テ財物ヲ得ル場合ニ付キ直接ニ説明ヲ與ヘラレタルニ非サルカ故ニ余輩ノ疑ヲ解クニ足ラスト雖モ少クトモ目的タル行為ニシテ罪ト爲ラサルニ拘ハラヌ其手段ノミ犯罪ヲ構成スル場合アルコトヲ認メラレタルコト明カナリト謂フヘシ

○賣買代金ノ消滅時効 賣買代金ノ消滅時効ハ何時ヨリ進行スヘキカニ付

キ法曹會ハ賣買ノ目的物提供前ト雖モ時効ハ進行スルモノト決議セラレタリ其理由ニ曰ク消滅時効ハ權利ヲ行使スルコトヲ得ル時ヨリ進行シ別段ノ規定アル場合ノ外法定期間ヲ經過スルニ於テ完成スヘキモノナリ(民法一六六、一五八乃至一六〇參照)而シテ賣主ハ買主カ代價支拂ノ提供ヲ爲ササルニキハ物ヲ引渡シ拒ミ買主ハ物ヲ提供アルマテ代價ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ヘシト雖モ是レ固ト雙務契約ノ性質上公平ナラサルヘカラスナルニ因ルモノニシテ當事者ハ一方ヨリ債務履行ヲ提供ナキニ拘ハラヌ他ノ一方ニ於テ履行ハ請求ニ應スルコトヲ妨グズ故ニ賣主ハ目的物ヲ提供セズシテ代金ヲ支拂ヲ請求スルコトヲ得サル理ナシ雖其權利ハ相手方ハ抗辯ニ因リテ實行ヲ妨グタルルコトアル(ヘキ)故ニ代金支拂請求權ニ對スル消滅時効ト雖モ之ヲ請求シ得ヘキト云ヨリ進行スルモノト謂フヘシト此說ニシテ行使ハレシカ賣主タル者ハ急速ニ代金ヲ請求セザルニ代金ヲ得シタ物ヲ引渡ササルヘカラスナル結果ヲ生スルコトアルヲ免レサルヘテ隨テ正直ナル良民ハ往往ニシテ意外ノ損失ヲ被ルコトアルハ注意サルヘケシキニ就テハ我國人留置取索風習問題ニ於テハ



○家屋税問題ト仲裁裁判ニ付テハ我邦ニ於ケル外國人居留地家屋税問題ニ付テハ我政府ト英佛獨等ノ間ニ久シク爭ヒ爲リ居リシカ(第三學年第十一號雜報欄)法學志林第三十號雜報欄參觀此度我政府ト英獨佛間ノ規定ニ因リ同問題ヲ萬國仲裁裁判所ノ裁判ニ付スルコト爲レリ而シテ其訴訟手續ニハ日英獨佛四國國體ヲ用スル由ニテ之ニ關スル日本語ノ議定書ニハ右四箇國ノ代表者共ニ同印スヘシト云フ雖ニ墨其西哥政府ト米國政府トカ米國カリフォルニア州ノ加利力教寺院ニ付キ起リタル紛議ヲ萬國仲裁裁判所ノ裁判ニ付スルコト爲レリ又我邦ト歐洲強國トノ間ニ於ケル爭議ヲ仲裁裁判ニ付スルコト爲レリ又見ル余輩ハ世界ノ涉外的爭議ハ總テ仲裁裁判ノ手續ニ依リ公平誠實ナル碩學ノ判斷ニ委シ他ノ動物ニ於ケルカ如ク同類互ニ血ヲ流シテ相闘タカ如キ悲劇ハ成ルヘク之ヲ避ケ平和ノ狀態ニ於テ局ヲ結ヒ以テ民力ヲシテ他ノ有益ナル方向ニ用ヒシメ一方ニ於テハ智能ノ尊重スヘキ所以ヲ明カニシ一方ニ於テハ人類ノ品位ヲ適ニ他ノ動物ニ優所コトヲ明カニシ世界ノ文明ヲシテ益高等ノ地位ニ昇進セシメシムコトヲ希望スル者ナリ

# 生徒募集廣告

○授業開始 九月十一日

○入學試驗 九月六日、十六日、二十五日ノ三回何レモ午前九時ヨリ施行

○編入試驗(第二年級) 九月二十三日ヨリ施行

○聽講生 今般新ニ聽講生ノ制ヲ設ク(裏面上欄參照)

入學志望者ハ試驗前日マテニ申込マルヘシ  
學則ハ郵券貳錢送付アレハ即時送呈スヘシ

九月 東京九段阪上 司法省指定 立 和佛法律學校

### 聽講生規則摘要

- 本校ニテハ本科生ノ如ク各學科ヲ聽講スルコト能ハサル者又ハ各自對テ所ノ學科ニ付キ隨意聽講セントスル者ノ便ヲ圖リ新ニ聽講生ノ制ヲ設ケ來學年ヨリ實行スルコトトセリ今其規則ノ概要ヲ左ニ掲ゲ入學ヲ許可セララル者ハ本校ノ詮考ヲ經ルコトヲ要ス但試驗ヲ行フコトアリ
- 一 入學ノ際及ヒ毎月授業料二圓ヲ納ムルコトヲ要ス
- 一 聽講生ハ聽聞シ終リタル學科ニ付キ聽講證書ヲ、試驗ヲ受ケ合格シタルトキハ合格證書ヲ受クルコトヲ得
- 一 三年以上聽講生ト爲リ且本校所定ノ全學年（隨意科ヲ除ク）ニ付キ合格證書ヲ有スル者ハ本校ノ卒業證書ヲ受クルコトヲ得

明治二十二年十二月九日內務省許可  
明治三十四年十一月四日第三種郵便物認可

明治三十五年九月四日印刷

明治三十五年九月五日發行

（定價金貳拾錢）

東京市京橋區南船場町二十七番地

編輯兼發行所 松田久次郎

東京市牛込區矢來町三番地

印刷所 小宮山信好

東京市芝區西ノ久保町十一番地

印刷所 金子活版所

東京市總町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

（電話番町百七十四番）